

茨城縣地方學童 Mantoux 皮内反應檢査成績竝ニ 之レト頸部淋巴腺腫脹及ビ榮養狀態トノ 關係ニ就イテ (第一回報告)

茨城縣警察部衛生課

衛生技師 井 出 潔

茨城縣立健康相談所

衛生技師 渡 部 秋 雄

内容目次

第一章 緒 言	第三節 Tuberculin 反應程度ト榮養狀態トノ關係
第二章 Tuberculin 反應ノ意義竝ニ余等ノ檢査目的ニ就イテ	第六章 Tuberculin 反應ト頸部淋巴腺腫脹
第三章 檢査地域竝ニ檢査方法	第一節 頸部淋巴腺腫脹狀態ニ就イテ
第一節 檢査地域	第一項 第 1 部位ニ於ケル頸腺腫脹
第二節 檢査方法	第二項 第 2 部位ニ於ケル頸腺腫脹
第一項 檢査術式	第三項 第 3 部位ニ於ケル頸腺腫脹
第二項 檢査成績ノ判定	第二節 Tuberculin 反應ト頸腺腫脹トノ關係
第四章 Tuberculin 反應成績	第一項 第 1 部位ニ就イテ
第一節 性的差異	第二項 第 2 部位ニ就イテ
第二節 年齢的差異	第三項 第 3 部位ニ就イテ
第三節 反應陽性程度ノ年齢的關係	第四項 概 括
第五章 Tuberculin 反應ト榮養狀態	第七章 總括及ビ結論
第一節 被檢兒童ノ榮養狀態	主要引用文獻
第二節 Tuberculin 反應ト榮養狀態トノ關係	

第一章 緒 言

我が人類ニ於ケル結核感染ハ既ニ哺乳期ニ始マリ、爾後年齢ノ長ズルニ及ビ、其ノ感染頻度ノ逐次高率ヲ示スコトハ今日學說ノ一致スル所ナリ。

今 Tuberculin 反應ニ依ル結核感染頻度ノ檢査成績ニ就イテ、先ヅ之レヲ外國ノ文獻ヲ按ズルニ Pirquet ハ 7—14 歳ノ兒童ニ對シテ Pirquet 反應ヲ試ミテ、70.2%ノ陽性率ヲ得タリ。更ニ Hamburger ハ 82.5%、Moro. 50.0%、Pet-

rusky. 74.0%、Engel 41.9%、Nathmann. 73.1%、Bruching. 47.4%ノ陽性率ヲ報告セリ。又 Frustner ハ 1921 年和蘭 Fague 市ノ小學校兒童 (7—13 歳) 1504 名ニ就キ、同ジク Pirquet 反應ヲ試ミ、26.5%ノ陽性率ヲ得タリ。由之、Pirquet. Hamburger. Mouti 等ハ結核感染ハ哺乳期ニ始マリ、青年期ニ達スルヤ約 94.0%ニ及ブモノナルコトヲ唱フルモ、曠テ本邦ニ於ケル青年期ノ Tuberculin 反應ノ陽性

率ハ、小林、岡、有馬、柴田、菊地、高野等ノ検査成績ト對比スルニ、外國ノ夫レニ比シテ著シク低率ナルヲ見ルベシ。又本邦ニ於テ小學校兒童ニ就イテ Tuberculin 反應ヲ試ミタル業績ハ比較的僅少ナレドモ、是等ノ成績ニ據リテ、結核感染ヲ疫學的ニ考察スルニ、一見健康兒ノ

如ク、喜戲シ日々通學スル兒童中ニ、潜伏結核ヲ有スル者ノ數ノ相當多數ナルハ想像ニ難カラザルコトハ諸學者ノ夙ニ是認スル所ナリ。我國ニ於ケル諸家ノ小學校兒童ニ對スル Tuberculin 反應成績ヲ尋ヌルニ第 1 表ニ示スガ如シ。

第 1 表 本邦各地ニ於ケル兒童「ツベルクリン」反應成績

報告者	場所	検査人員	陽性率	實施年	方 法
伊 東 博 士	福 岡 市	442	48.6%	明治 43 年	ビルケー
酒 井 博 士	大 阪 市	619	45.6%	明治 44 年	同
坂 井、齋 藤	京 都 市	1.831	77.3%	大正 2 年	同
鎮目、池田、村松	東 京 市	691	25.3%	大正 12 年	同
同 上	同 上	424	43.3%	同 上	同
有馬、菊池、松田	札 幌	807	42.0%	大正 13 年	同
井 上 博 士	福岡縣村落	2.043	24.8%	大正 15 年	マンツー
丸 岡	入 幡 市	3.500	26.1%	昭和 2 年	ビルケー
鄭 晃 錫	京 城	601	47.8%	同 上	マンツー
同 上	同 上	601	41.6%	同 上	同
高 田	富 山 市	739	30.7%	昭和 3 年	同
宇 留 野 博 士	廣 島 市	964	45.1%	昭和 5 年	同
平 澤、高 橋	東 京 市	1.129	72.1%	同 上	ビルケー
橋 積 重 人	那 霸 市	742	43.9%	同 上	マンツー
百 崎	佐 賀 市	630	21.0%	昭和 6 年	ビルケー
岩 崎 彌 一 郎	大 阪 市	1.405	43.1%	同 上	マンツー
野 村 禮 之	東 京 市	4.917	36.2%	同 上	同
佐 藤、木 村	盛 岡 市	278	26.9%	昭和 8 年	ビルケー
新 井	東 京 市	249	47.7%	同 上	マンツー
岩 淵 要	同 上	2.388	85.0%	同 上	同
高橋、上林、古屋	同 上	633	76.9%	同 上	同
砂 川 正 亮	奈 良 市	2.219	35.5%	同 上	同
高橋、松本、黒田、畔柳、築根、前島、谷本	名 古 屋 市	2.596	26.5%	同 上	同

即チ、是等諸家ノ成績ヲ通覽スルニ、其ノ陽性率ニ就イテ、多少ノ異同ヲ免レザルモ、施行地域、検査術式、判定方法、Tuberculin 原液ノ製造所、及ビ其ノ稀釋方法、生活環境等ノ各因子ノ影響ニ依リ必然ナルモ、由是、本邦ニ於ケル、都市及ビ農村ノ結核感染頻度ノ概數ヲ推定スルニ難カラザルベシ。

由來、我が茨城縣ハ内務省死亡統計ノ示ストコロニ據レバ結核死亡數ハ人口 1 萬人ニ對シテ、昭和 5 年度本邦平均 13.36 ニ對シテ 7.89 ニシ

テ岩手縣ノ 6.89 ニ亞ギ低位ヲ占メ、更ニ昭和 6 年度ニテハ、本邦平均 13.64 ニ對シテ、8.34 ニシテ之レ亦、岩手縣ノ 7.31 ニ亞ギ本邦ニ於テ第 2 位ノ低率ヲ示ス。假リニ、此ノ數字ヲ基準トシテ、本縣ニ於ケル結核蔓延狀況ヲ考察スルニ他府縣地方ニ比シテ當然稀薄ナルベク、之レガ調査研究ハ結核豫防施設上重要ナル問題ト謂ヒ得ベシ。昭和 9 年度以來、本縣下(水戸聯隊區)徴兵検査ニ際シテ壯丁全員ニ對シテ Mantoux 皮内反應ヲ施行サレツ、アルガ、昭和 9 年度ノ

成績ニテハ、各地方別ニ依リ其ノ陽性率ニ異同ヲ認ムルモ平均 44.73%ノ陽性率ヲ示セリ。此ノ成績ニ據テモ本縣下ニ於ケル結核蔓延ノ狀況ヲ推知スルコトヲ得ルモ、余等ノ寮間ヲ以テスルニ、本縣ニ於テ小學校兒童ニ對スル Tuberculin 反應検査成績ノ未ダ見ルベキモノナシ。茲ニ於テカ、小學校兒童ニ對シテ Tuberculin 反應検査ヲ企テ、余等ノ成績ト、徴兵検査成績ト

ヲ對比考究シテ、義務教育終了後、徴兵適齡ニ至ル間ニ於ケル Tuberculin 反應陽性轉向即チ結核初感染率ヲ窺知シ結核豫防施設ノ資料ヲ得、併セテ頸部淋巴腺腫脹及ビ榮養狀態トノ關係ヲ究明セントシテ調査シタル成績ノ一端ヲ報告シ、先進諸家ノ御叱正ヲ仰ガムトスル所以ナリ。

第二章 Tuberculin 反應ノ意義並ニ余等ノ検査目的ニ就イテ

抑々 Tuberculin 反應ノ本態ハ、個體ガ結核菌ノ感染ヲ受ケタルトキ、茲ニ該個體ガ結核菌ニ對シテ一種ノ過敏狀態トナリテ發現スル生物學的反應ナリ。Tuberculin 反應陽性ナルハ、即チ個體ガ 1 回以上、結核菌ノ感染ヲ受ケタルコトアルヲ示スモノナレドモ、其ノ感染ガ必シモ、結核病ヲ起セルコトヲ要セズ、單ニ個體內ニ結核病機ノ存在ヲ意味スルモノナリ。然レドモ結核ニ何時感染シタルヤ、結核病機ガ個體ノ何處ニ存在スルヤ、結核病機ガ活動性ナリヤ或ハ非活動性ナリヤ、或ハ結核病竈ガ既ニ治癒シテ臨牀上殆ド意義無キモノナリヤ否ヤヲ區別スルコトヲ得ザルヲ以テ臨牀醫學上 Tuberculin 反應ノ聲價一時衰ヘタルノ觀アリシガ、近年更ニ新シキ方面ヨリノ研究ノ勃興ニ伴ヒ新シキ見解ニ立脚シテ再ビ、之レガ検討ヲ重ネラレ幾多ノ業績相踵イデ發表サレツ、アル現況ナリ。然レドモ余等ハ茲ニ Tuberculin 反應ノ臨牀的意義ニハ觸レズ、該反應ノ公衆衛生學的意義ニ就キ私見ヲ述べ且ツ検査目的ニ就イテ、些カ言及セムトス。

Tuberculin 反應陰性トハ從來、結核未感染ヲ意味シタルモ、近年幾多ノ學者ノ研究ニ據リ、之レガ解釋ハ大約次ノ如キ場合ヲ考ヘラル、ニ至レリ。

- (1) 結核ニ全然感染セザルモノ、所謂絕對未感者(Absolute Anergie nach Hayek)
- (2) 結核ニ感染シタルモノ未ダ Tuberculin-allergieノ發現セザルモノ、即チ Tuberculin 反

應潜伏期(biologische Inkubationsperiode)。

(3) 結核ニ罹患シタルモ、極メテ輕微ナルタメ Allergie 發現セザルカ又ハ發現スルモ、其ノ程度弱ク通常ノ検査方法ニテ證明シ得ザルモノ(negative Allergie)。

(4) 結核ニ感染シ、陽性トナリタルモノガ、病狀治癒シテ Allergie 消失シタルモノ。

(5) 結核ニ感染シナガラ反應陰性ノマ、治癒シタルモノ(negative Anergie)。

(6) 重症結核ノタメ Tuberculin 反應ガ一時的ニ消失シタルモノナリ。

成人ノ大部分ガ結核既感染者タルコトハ獨リ、Tuberculin 反應成績ノミナラズ病理解剖學及ビ「レントゲン」學モ等シク之レヲ是認スルコロシテ、人類生存スル所ニテ結核菌無キ所アラザル現狀ニ於テ結核感染ノ豫防、即チ人體内ニ結核菌ノ侵入ヲ防グハ人事ヲ以テ能ク爲シ得ザルトコロナリ。然レドモ結核病ニ於テハ感染ト發病トノ關係ハ他ノ急性傳染病ト大ニ其ノ趣ヲ異シ、結核菌ノ侵入ヲ蒙リタリト雖モ、個體ノ健康狀態、生活環境等ノ各種ノ因子ニテ左右サレ、或ハ不幸發病スルモノアルニ反シ、他ノ多クハ發病スルニ至ラズ其ノ生涯ヲ完ウスルモノアリ。故ニ結核豫防ノ要諦ハ結核既感染個體ヲシテ、發病ヲ誘致スベキ原因ヨリ遠ザクルニアリ。Tuberculin 反應陽性ナル兒童ヲ以テ結核病患者ナリトスルハ當ラザルモ、既感染者ナルヲ以テ、是等ニ對シテ養護ヲ充分ニナシ、健康狀態ヲ仔細ニ觀察シテ發病ヲ阻止スルガ如

々努ムルハ豫防上最モ緊急ノコトニ屬ス。殊ニ小兒期結核ハ豫後一般ニ佳良ナルモノナルヲ以テ、適切ナル養護方法ヲ以テ發病ヲ阻止シ健全ナル發育ヲ遂ゲシメルニ於テハ、所謂マルファン氏法則 (Loi de Marfan) 及 ピピリー、アルベー氏法則 (Loi Piery et Arberz) ニ從ヘバ將來結核病ニ對シテ抵抗力ヲ有スル體質ニ形成シ寧ロ結核豫防上有意義ナラシムル所以ナリ。逐年、結核病ノ著シキ減少ヲ示シツ、アル歐米各國ノ狀況ヲ觀ルニ、各國共ニ死亡年齡著シク延長シ漸次高年トナリツ、アルニ、之レニ反シテ我國ノ現状ハ寧ロ青少年期ニ於テ死亡率高カシ。結核菌ニ對スル個體ノ抵抗力ハ年齡ニ關係シテ其ノ危險程度ヲ異ニシ、一般ニ年少者程、發病ノ危險率高カシ。人類ノ結核感染ハ免レ得ザルモノナリト雖モ、危險率高カキ年少期ニ於

テハ可及的感染元トノ接觸ヲ避ケ、初感染年齡ヲシテ延長セシムルコトハ亦結核豫防上看過スベカラザル意義ヲ有スルモノトス。

以上ノ觀點ヨリ論ズルニ、小學校兒童ニ對シテ Tuberculin 反應ヲ實施シ、陽性兒童ニ對シテハ其ノ健康狀態ヲ嚴重ニ觀察シ養護ヲ怠ラズ健全ナル發育ヲ遂ゲシメルト共ニ他面、陰性兒童ニ對シテハ反復検査ヲ施シ、陽性轉向期即チ初感染期ヲ窺知シ、其ノ時期ニハ充分適切ナル養護ヲナス必要アリ、蓋シ結核發病上一此ノ初感染期ガ最モ密接ノ關係アレバナリ。

斯ル施設ハ獨リ學校衛生上ノ問題タルニ止マラズ延イテ國民保健衛生上最モ重大ナルコトニ屬ス、仍テ余等ハ本検査ヲ普ク縣下小學校兒童ニ實施シ以テ豫防施設上ノ資料ヲ求メムトセル所以ナリ。

第三章 検査區域並ニ検査方法

第一節 検査區域

結核ノ蔓延汎布ノ狀態ハ (1) 地理的關係 (都市デアルカ、地方デアルカ) (2) 氣象の影響 (溫度、濕度、降水量、日照時間) (3) 自然的環境 (4) 生活環境 (富裕デアルカ、貧困デアルカ、ノ經濟的境遇) 等ノ環境群 Milieux Komplex ノ影響ノ密接ナル關係アルコトハ等シク諸學者ノ是認スル所ナリ。著者ノ一人渡部ハ曩ニ北海道帝國大學有馬内科教室トノ共同作業トシテ、昭和3年1月、第7師團歩兵聯隊兵員3186名ニ就キ Tuberculin 皮内反應検査ノ一部ヲ分擔セシガ、其ノ成績ニ徵スルニ、歩兵第26聯隊 (函館聯隊區) ノ陽性率 65.5%ヲ最高トシ、第28聯隊 (旭川聯隊區) 之レニ亞ギ 49.0%ヲ示シ、第27聯隊 (釧路聯隊區) 43.5% 第25聯隊 (札幌聯隊區) 43.0%ノ順ヲ示ス。

我が茨城縣ノ地勢ヲ考察スルニ、其ノ面積ニ於テ北海道ノ夫レニ比スベクモアラズト雖モ、地勢氣象其他ノ環境群ノ同一條件ニアルモノト謂ヒ得ズ、又高野氏ノ徵兵検査ノ成績ニ據ルモ、之レ明カナリ。仍テ余等ハ各種ノ因子ヲ考慮シ、

概ネ次ノ如キ分類ヲ試ミ検査ヲ企テタリ。

- 1) 市街地
 - a) 市
 - b) 町 (人口1萬人以上ナルモノ)
- 2) 海濱地方
 - a) 純漁業地方
 - b) 半農、半漁業地方
 - c) 半商、半漁業地方
- 3) 山地地方
 - a) 高原地方
 - b) 平原地方
 - (i) 耕地地方
 - (ii) 湖沼沿岸地方

而シテ、是等ニ就キ系統的検査ハ諸種ノ事情ニテ實施シ得ザリシヲ以テ、總括的考察ハ今後ノ検査成績ヲ得テ他日ノ發表ニ讓ルコト、シ、昭和9年12月5日ヨリ、昭和10年2月6日ニ互リ、便宜三個小學校ヲ選定シ、其ノ兒童總人員2151名ニ就テノ検査成績ヲ第一回報告トシテ茲ニ發表スルコト、セリ。假リニ是等ノ3小學校ヲ夫々A校、B校、C校、ト呼稱ス。A校ハ常

磐線鐵道ノ沿線ニアリテ水戸市ヲ距ル北方約 56 K. m. ノ地點ニ位スル人口約 2 萬ノ町ニシテ、半農半漁業地方ニ屬シ、其ノ住民ノ一部ハ炭礦労働者ナリ。

B, C 校ハ共ニ水戸市ニ在リ、B 校ハ市内小學校中、兒童ノ生活環境比較的低位ニアルモノナルニ反シ C 校ハ富裕ナル家庭ノ兒童ヲ收容スルモノナリ。

第二節 検査方法

第一項 検査術式

従來 Tuberculin 反應検査術式トシテ數種ノ方法アリ。即チ(1)眼反應 Wolf-Eisner'sche Ophthalmoreaktion (2)軟膏反應 Moro'sche Salbenreaktion (3)皮膚反應 Pirquet'sche Kutanreaktion (4)皮内反應 Mantoux u. Roux'sche Intrakutanreaktion 等アリ。而シテ(3)及ビ(4)ヲ以テ其ノ代表的ノモノトナス。然レドモ此ノ兩方法ニ就イテモ、Mantoux u. Roux ノ皮内反應ガ Pirquet ノ皮膚反應ニ比較シテ鋭敏ニシテ正確ナルハ幾多ノ實驗成績ノ教ユルトコロニシテ、之レヲ例セバ、Mantoux ハ生後 5 ヶ月ヨリ 15 歳ノ小兒 52 例ニ Pirquet 皮膚反應及ビ Mantoux 皮内反應ヲ試ミタルニ、27 例ハ兩反應陽性ニシテ、8 例ハ Pirquet 反應疑ハシキモ、Mantoux 反應ニテハ何レモ陽性ナリシコトヲ報告シ、Mensi ハ 3000 名ニ就キ、兩反應ヲ試ミ兩者ヲ比較セルニ、Pirquet 反應陽性 26.39%ニ對シテ Mantoux 反應ハ 34.0%ナルヲ報告ス。更ニ之レヲ本邦ニ於ケル業績ニ就キ見ルニ井上氏ハ九州帝國大學小兒科入院患者ニテ 1—15 歳ノ兒童 63 例ニ就キ比較検査ノ結果、Pirquet 反應陽性者 27 例(42.8%) Mantoux 反應陽性者 31 例(49.2%)ノ成績ヲ得、又小學校兒童 2043 名ニ就キ Mantoux 反應ヲ試ミ、其ノ中 756 名ニ對照トシテ Pirquet 反應ヲ試ミタルニ、Mantoux 反應、強陽性者 118 例ニ對シテ Pirquet 反應、強陽性者 43 例、中等度陽性者 55 例、反應疑ハシキ者 6 例ナルヲ報告ス。又栗山氏ノ東京帝國大學

小兒科ニ於ケル成績モ略々之レト一致シ、佐藤、若林兩氏ノ陸軍兵員 850 名ニ對シテノ検査成績ハ Pirquet 反應 68.0%ナルニ比シテ Mantoux 反應 78.3%ヲ示シ、菊池氏ハ海軍兵員 497 名ニ兩反應ヲ試ミ Pirquet 反應 89.44%ニ對シテ Mantoux 反應 45.47%ノ成績ヲ得、貴島、船松兩氏ハ 47 名ノ看護婦ニ就キ Pirquet 反應 27.6%ニ對シテ Mantoux 反應 34.0%ノ成績ヲ得タリ。

要之、Mantoux 反應ノ Pirquet 反應ニ比シテ鋭敏ナルハ諸家ノ業績ノ一致スルトコロニシテ余等ハ操作簡便ニシテ且ツ鋭敏確實ナル Mantoux u. Roux ノ方法ヲ採用シ、次ノ要領ニ據リ検査ヲ施行セリ。

(1) 注射材料。

舊「ツベルクリン」原液ハ其ノ製造所ニ依リ反應成績ニ多少ノ差異ヲ生ズルモノトセラル、余等ハ本検査施行ニ際シテ、全部、北里研究所製造ニ係ルモノヲ使用セリ。

(2) 注射器及ビ注射針。

1 ccヲ正確ニ分割セル「レコード」注射器及ビ $\frac{1}{16}$ m.m. 直徑ノ注射針ヲ煮沸消毒シテ、更ニ之レヲ使用前、注射液ヲ數回吸引シテ良ク洗滌スルコト數回、以テ殘餘ノ水分ノタメ注射液ノ稀薄トナルコトヲ避ケタリ。尙注射針ハ使用ノ都度、酒精ヲ以テ清拭セリ。

(3) 注射部位及ビ方法。

注射部位ニヨリテ、其ノ反應程度ヲ異ニスルヲ以テ、本反應検査ニ當リ、注射部位ノ選定ニ就イテモ各々學者間ニ意見一致セズ。余等ハ上膊前面又ハ内面ヲ選定セリ。即チ酒精ヲ浸セル綿球ヲ以テ注射部位ノ皮膚ヲ充分ニ清拭シ、注射針斷面ヲ上方ニ向ケ、皮膚表面ト並行シ正確ニ皮内ニ刺入シ、針尖ガ皮下ニ入ラザルヤウ注意シ、確實ニ所要量ヲ注入シ白色丘疹 Quaddel ノ生ズルヲ以テ標準トセリ。

(4) 注射液稀釋方法及ビニ注射量。

注射液ノ稀釋倍數及ビ之レガ注射量ニ就イテハ、學者間ニ於テ幾多ノ説ガ唱ヘラル。

即チ、Mantoux ハ 5000 倍液、0.05cc ヲ用ヒ、井上、岩崎兩氏之レニ贊シ、有馬氏ハ、5000 倍液、0.2cc ヲ用ヒ、Rosenberg. Engel 氏等ハ、5000 倍液 0.1cc ヲ用ヒ Men Mantoux Bass. Smith. 上田、小林、前田、安井、寺島、橋積、平井、高橋、松本、黒田、畔柳、前島、谷本ノ諸氏ハ、1000 倍液 0.1cc ヲ用ヒ、今村、貴島、太田、相澤、岡、新井、砂川氏等ハ 2000 倍液、0.1cc ヲ用フルモ余等モ亦、之レヲ適當トシテ 2000 倍液、0.1cc ヲ注射セリ。

舊「ツベルクリン」原液稀釋ニハ從來 0.5% ノ割合ニ石炭酸ヲ加ヘタル生理的食鹽水ヲ用ヒラレタルモ、近時、生理的食鹽水ノミヲ以テ稀釋スル學者アリ、小林氏ノ實驗成績ニ據レバ、石炭酸ヲ加フルモ、誤差ヲ認メズトスルモ、余等ガ被檢兒童ノ一部及ビ外來患者約 50 例ニ就テノ對照試驗ノ成績ニ徴スルニ、其ノ陽性率ニ差異ヲ認メザリシモ、石炭酸ヲ加ヘタルモノニ於テ、何レモ反應程度ノ強キヲ知レリ。此ノ僅少ノ實驗例ヲ以テ、批判スベキ限リニ非ズ、後日ノ研究ニ讓ルモ、豫メ石炭酸ヲ加ヘタルコトニ依リ反應ニ誤差アラザルヤヲ顧慮シテ、本檢査ニハ生理的食鹽水ノミヲ以テ稀釋セルモノヲ使用セリ。

第二項 檢査成績ノ判定

Tuberculin 反應成績ノ判定標準ニ就テモ亦、諸學者間ニ議論ノ存スルトコロニシテ、加之、注射液稀釋倍數モ亦之レニ關係スルヲ以テ判定標準ヲシテ益々複雑ナラシムルモノナリ。

草野氏ハ直徑 2m.m. 以上ノ發赤、腫脹ヲ以テ

陽性トナシ、Engel. Hetheringen & Phedran, 戸川ノ諸氏ハ 5m.m. 以上ヲ以テ陽性トナシ、今村、貴島、舩松、光崎ノ諸氏ハ 0.1cc ヲ皮内ニ注射シタル場合 4—6m.m. ノ蒼白色ノ丘疹ヲ生ズルヲ以テ、發赤、腫脹ノヨリ大ナル 7m.m. 以上ヲ以テ陽性トナスヲ至常ナリトシ、即チ 7—15m.m. (+) 16—25m.m. (++) 26m.m. 以上及ビ水泡形成及ビ壞疽ヲ伴ヒタルモノヲ (+++) ト定メタリ。又 Grosser & Keilmann, 白井、小林、上田ノ諸氏ハ、10m.m. 以上ヲ陽性トナシ 10—15m.m. (+) 16—20m.m. (++) 21m.m. 以上 (+++) トナシ、宇留野氏ハ紅暈ノ直徑 3m.m. 以下ヲ (-) 5m.m. (±) 7—15m.m. (+) ツレ以上ヲ (++) ト定メ、鄭氏ハ 1m.m. 以下 (±) 10—15m.m. (+) 15m.m.—20m.m. (++) 20m.m. 以上ヲ (+++) ト定メ、根積氏ハ 5—10m.m. (±) 10—20m.m. (++) 20—30m.m. (+++) トナシ、又新井氏ハ 5—10m.m. ヲ (+) 10—15m.m. (++) 15m.m. 以上 (+++) ト定メ相澤、太田兩氏ハ發赤及ビ硬結ノ直徑ヲ基準トシテ一新判定方法ヲ考案セリ。余等ハ今村氏等ノ判定標準ニ從ヒ、注射後 48 時間ニシテ反應ヲ檢査シ、7—15m.m. (+) 16—25m.m. (++) 26m.m. 以上及ビ、水泡及ビ壞疽ヲ伴フモノヲ (+++) トナシ、二重發赤ノ場合ハ内側ノモノヲ採リ、橢圓形ノ發赤ハ其ノ長キ徑ヲ探レリ。而シテ (±) ハ極メテ少數ナリシヲ以テ全部之レヲ (-) ニ算定セリ。反應陰性者ニシテ更ニ 1 週間後反覆注射スルトキハ陽性トナルモノアリト説ク學者アレドモ今回ノ檢査ニ於テ實施シ得ザリキ。

第四章 Tuberculin 反應成績

第一節 性的差異

先ヅ、A 校兒童 692 名ニ就キ反應陽性率ヲ、性別ニ依テ、觀察スルニ、第 2 表ノ如ク、各年齢毎ニ、陽性率ノ差異ニスト雖モ、全般的ニ男兒ハ女兒ニ比シテ平均 6.66% ノ高率ヲ示ス。次ニ B 校兒童 784 名ニ就キ觀察スルニ、A 校ニ於ケルト略々同一ノ關係ヲ示シ、亦男兒ニ於テ 2.00

% ノ高率ヲ示ス。

更ニ C 校ニ就テモ第 2 表ノ如ク、7 年ニ於テ、男兒ハ女兒ニ比シテ高率ニシテ、男兒平均 18.36% ニ對シテ女兒 22.97% ノ結果ヲ得タリ。

以上 A.B.C. 三校兒童人員總計 2151 名ニ就キ觀察スルニ、男兒 20.55% ニ對シテ女兒 19.13% ニシテ其ノ陽性率ハ相伯仲スルモ僅カニ、男

第 2 表 男女兒年齡別「ツベルクリン」皮内反應陽性率 A.B.C 校

年 齡	性 別	A 校			B 校			C 校			計		
		檢 査 人 員	實 數	百 分 率	檢 査 人 員	實 數	百 分 率	檢 査 人 員	實 數	百 分 率	檢 査 人 員	實 數	百 分 率
7 年	男	36	2	8.33	63	5	7.94	42	5	11.90	141	12	8.51
	女	42	5	11.90	41	8	19.51	53	4	7.55	136	17	12.50
8 年	男	16	6	37.50	75	10	13.33	47	5	10.64	168	21	12.50
	女	39	2	5.13	79	8	10.13	67	12	17.91	185	22	11.89
9 年	男	56	9	16.07	70	14	20.00	40	3	7.50	166	26	15.66
	女	34	4	11.76	85	13	15.29	42	11	26.19	161	28	17.39
10 年	男	67	13	19.40	54	9	16.67	64	17	25.56	185	39	21.08
	女	46	3	6.52	60	10	16.67	71	19	26.72	177	32	18.08
11 年	男	44	9	20.45	32	6	18.95	62	12	19.35	139	27	19.42
	女	55	11	20.00	40	7	17.50	73	17	23.29	168	35	20.83
12 年	男	46	14	30.43	72	14	19.44	50	14	28.00	168	42	24.86
	女	31	10	32.26	20	6	30.00	64	22	34.38	115	38	33.04
13 年	男	47	26	55.32	33	14	42.42				80	40	50.00
	女	34	13	38.24	48	9	18.75				82	22	26.83
14 年	男	39	15	38.48	5	2	40.00				44	17	38.64
	女	30	8	26.77	7	1	14.29				37	9	24.32
計	男	381	94	24.67	404	74	18.32	305	56	18.36	1,090	224	20.55
	女	311	56	18.01	380	62	16.32	370	85	22.97	1,061	203	19.13

兒ニ於テ高率ナリ。

要之、余等ノ檢査成績ニ就テハ性的ニ特ニ著明ナル差異ヲ認メズ。

之レヲ本邦ニ於ケル諸家ノ成績ト比較スルニ、齋藤、鄭、橋積、岩崎、野村、岩淵、新井氏等ハ何レモ男兒ハ女兒ニ比シテ高率ナリトシ、之レニ反シテ、伊東、宇留野、有馬、草野、平澤、高橋ノ諸氏ハ女兒ニ高率ナリトシ、又井上、高橋兩氏ハ男女同率ナリト、余等ノ成績モ亦性的ニ軒輊ヲ認メ難ク、井上、高橋兩氏ノ成績ニ一致スルモノナリ。

第二節 年齢的差異

Tuberculin 反應陽性率ハ年齢ノ長ズルニ從ヒ逐次高率トナルハ歐米並ビニ本邦ニ於ケル先進諸家ノ業績ノ等シク一致スルコトナリ、余等ノ檢査成績ヲ、A校ニ就イテ觀察スルニ第 3 表ノ如ク 7 年、8.97%ヲ最低トナシ、多少ノ動搖ヲ認ムルモ、全般的ニ年齢ニ比例シテ増率スルモノナリ。B校ニ於テモ第 4 表ノ如ク、8 年、

11.69%ヲ最低トシ 13 年 28.40%ヲ最高トスルモ、其他ハ年齢ノ長ズルニ伴ヒ陽性率ヲ増加シツ、アリ。C校ニ於テモ第 5 表ノ如ク、12 年 31.58%ヲ最高率トナシ、10 年及ビ 11 年ニテ逆ノ關係ヲ示スト雖モ、其他ハ年齢ニ並行シテ増率ス。

要之、A.B.C. 三校ノ成績ヲ概括スルニ、第 6 表ノ如ク 7 年 10.47%ヲ最低トシ、14 年、13 年ニ於テ、動搖ヲ認ムルモ、年齢ノ長ズルニ伴ヒ陽性率ノ漸次増加スルコトハ先進諸家ノ業績ト一致ス。而シテ本檢査成績ニアラハレタル年齢的動搖ハ所謂偶發性偏在性現象トシテ先人ノ業績ニモ見ルトコロナリ。

12 年 28.27%ニ對シ、13 年ニ至リ急激ニ上昇ヲ示シ、38.27%トナルハ注目ニ價スル所ニシテ、之レヲ各校別ニ見ルニ多少ノ差異ハ存スルト雖モ、本檢査施行學校ニ於テハ 12 年ヨリ 13 年ノ間ニ於テ初感染ヲ受クルモノ多キモノト思考セラル。

第3表 男女兒「ツベルクリン」皮内反應陽性率 A校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
檢 査 人 員	78	85	90	113	99	77	81	69	692
「ツ」反應陽性者	7	8	13	16	20	24	39	23	150
百 分 率	8.97	9.41	14.44	14.16	20.02	31.17	48.15	33.33	21.68

第4表 男女兒「ツベルクリン」皮内反應陽性率 B校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
檢 査 人 員	104	154	155	114	72	92	81	12	784
「ツ」反應陽性者	13	18	27	19	13	20	23	3	136
百 分 率	12.50	11.69	17.42	16.67	18.06	21.74	28.40	25.00	17.35

第5表 男女兒「ツベルクリン」皮内反應陽性率 C校

年 齡	7	8	9	10	11	12	計
檢 査 人 員	95	114	82	135	135	114	675
「ツ」反應陽性者	9	17	14	36	29	36	141
百 分 率	9.47	14.91	17.07	26.09	21.42	31.58	20.89

第6表 男女兒「ツベルクリン」皮内反應陽性率 A.B.C 校計

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
檢 査 人 員	277	353	327	362	306	283	162	81	2,151
「ツ」反應陽性者	29	43	54	71	62	80	62	26	427
百 分 率	10.47	12.18	16.51	19.61	20.26	28.27	38.27	32.10	19.85

第三節 反應陽性程度ノ年齢的關係

反應陽性程度ト年齢的關係ニ就テ觀察スルニ、A.B.C. 各校別ノ成績ハ第7—9表ノ示スガ如シ。之レヲ總括スルニ第10表ノ如シ。即チ、強陽性(卅)ニアリテハ7年最モ低ク2.90%、12年7.96%、最モ高率ナリ。其ノ間年齢の動搖ハ免レズト雖モ、大體ニ於テ年齢ニ比例シテ高率ヲ示スモノトス。更ニ強陽性ヲ性別ニ觀察スルニ、特ニ著明ナル差異ヲ認メズ。中等度陽性(卅)ニテハ、7年4.34%ヲ最低率トシ、13年、17.33%最高率ナリ。之レモ亦、大體年齢ニ比例シテ高率ヲ示スコト(卅)ノ場合ニ同ジク、性別ニ就イテハ男兒8.07%ニ對シテ、女兒

7.63%ニシテ、男兒ニ於テ、僅カニ高率ヲ示ス。弱陽性(+)ニ就イテハ8年2.57%ニシテ最低率ヲ示シ、13年16.77%最高率ナリ、年齢ニ伴ヒ逐次高率ヲ示シツ、アルコトハ(卅)及ビ(卅)ニ於ケル關係ニ同ジク、更ニ之レヲ性別ニ觀ルニ男兒7.06%ニ對シテ女兒5.94%ニシテ、男兒ハ女兒ニ比シテ稍々高率ヲ示ス。要之、反應程度ト年齢的關係ハ第10表ノ如ク(卅)(卅)(+)各程度ニテモ、年齢ニ比例シテ漸次高率ナリ。性別ニ之レヲ觀ルニ、男兒ハ女兒ニ比シ幾分陽性率高カシ。各年齢ヲ通ジテ、(卅)最モ多く、86%ニシテ(+)65.1%(卅)5.49%ナリ。

第7表 年齢別「ツ」反應陽性程度一覽表 A校

年齢	性別	檢査人員	卅		卅		+		計	
			實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	男	36	0	0	2	5.56	0	0	2	8.33
	女	42	3	7.14	2	4.76	0	0	5	11.90

8	男	46	3	6.52	2	4.35	1	2.17	6	13.04
	女	39	0	0	2	5.13	0	0	2	5.13
9	男	56	3	5.36	4	7.14	2	3.57	9	16.07
	女	34	0	0	4	11.76	0	0	4	11.76
10	男	67	7	10.45	3	4.48	3	4.48	13	19.40
	女	46	2	4.35	1	2.17	0	0	3	6.25
11	男	44	3	6.82	4	9.10	2	4.55	9	20.45
	女	55	8	14.55	0	0	3	5.45	11	20.00
12	男	46	9	19.56	2	4.37	3	6.52	14	30.43
	女	31	7	22.58	1	3.23	2	6.45	10	42.26
13	男	47	2	4.49	9	19.15	15	31.91	26	55.32
	女	34	3	8.82	6	17.65	4	11.76	13	38.24
14	男	39	2	5.13	6	15.38	7	17.95	15	38.46
	女	30	0	0	4	13.33	4	13.33	8	26.77
計	男	381	29	7.61	32	8.35	33	8.66	94	24.67
	女	311	23	7.40	20	6.43	13	4.17	56	18.01
總計		692	52	7.52	52	7.52	46	6.65	150	21.68

第 8 表 年齢別「ツ」反應陽性程度一覽表・B校

年齢	性別	検査人員	卅		廿		十		計	
			實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	男	63	2	3.17	0	0	3	4.76	5	7.94
	女	41	2	4.88	5	12.20	1	2.44	8	19.51
8	男	75	5	6.67	3	4.00	2	2.67	10	13.33
	女	79	3	3.80	4	5.06	1	1.27	8	10.13
9	男	70	5	7.14	7	10.00	2	2.86	14	20.00
	女	85	5	5.88	5	5.88	3	3.53	13	15.29
10	男	54	3	5.56	5	9.26	1	1.85	9	16.67
	女	60	4	6.67	4	6.67	2	3.33	10	16.67
11	男	32	2	6.25	4	12.50	0	0	6	18.75
	女	40	3	7.50	2	5.00	2	5.00	7	17.50
12	男	72	4	5.56	4	5.56	6	8.33	14	19.44
	女	20	1	5.00	3	15.00	2	10.00	6	30.00
13	男	33	1	3.03	8	24.25	5	15.15	14	42.42
	女	48	1	2.08	5	10.42	3	6.25	9	18.75
14	男	5	1	20.00	1	20.00	0	0	2	40.00
	女	7	1	14.29	0	0	0	0	1	14.29
計	男	404	23	5.69	32	7.92	19	4.70	74	18.32
	女	380	20	5.26	28	7.37	14	3.68	62	16.32
總計		784	43	5.48	60	7.65	33	4.21	136	17.35

第 9 表 年齡別「ツ」反應陽性程度一覽表 C校

年齡	性別	檢査人員	卅		卅		十		計	
			實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	男	42	0	0	2	4.76	3	7.14	5	11.90
	女	53	1	1.89	1	1.89	2	3.77	4	7.55
8	男	47	1	2.13	2	4.26	2	4.26	5	10.64
	女	67	3	4.48	6	8.96	3	4.48	12	17.91
9	男	40	0	0	3	7.50	0	0	3	7.50
	女	42	3	7.14	2	4.76	6	14.29	11	26.19
10	男	64	3	4.84	7	11.29	7	11.29	17	25.56
	女	71	5	7.03	4	5.71	10	14.08	19	26.72
11	男	62	1	1.61	6	9.84	5	8.00	12	19.35
	女	73	4	5.48	9	12.33	4	5.48	17	23.29
12	男	50	2	4.00	4	8.00	8	16.00	14	28.00
	女	64	0	0	11	17.19	11	17.19	22	34.38
計	男	305	7	2.34	24	7.83	25	8.17	56	18.36
	女	370	16	4.34	33	8.92	36	9.76	85	22.97
總計		675	23	3.41	57	8.44	61	9.04	141	20.89

第 10 表 年齡別「ツ」反應陽性程度一覽表 A.B.C 校計

年齡	性別	檢査人員	卅		卅		十		計	
			實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	男	141	2	1.42	4	2.84	6	4.26	12	8.51
	女	136	6	4.38	8	5.84	3	2.19	17	12.50
8	男	168	9	5.36	7	4.17	5	2.98	21	12.55
	女	185	6	3.24	12	6.49	4	2.16	22	11.89
9	男	166	8	4.82	14	8.43	4	2.41	26	15.66
	女	161	8	4.97	11	6.83	9	5.59	28	17.39
10	男	185	13	7.03	15	8.11	11	5.95	39	21.08
	女	177	11	6.11	9	5.00	12	6.67	32	18.08
11	男	139	6	4.32	14	10.07	7	5.04	27	19.42
	女	168	15	9.09	11	6.67	9	5.45	35	20.83
12	男	168	15	9.09	10	5.95	17	10.12	42	24.86
	女	115	8	6.99	15	13.04	15	13.04	38	33.04
13	男	80	3	3.75	17	21.25	20	25.00	40	50.00
	女	82	4	4.88	11	13.41	7	8.54	22	26.83
14	男	44	3	6.82	7	15.91	7	15.91	17	38.64
	女	37	1	2.70	4	10.81	4	10.81	9	24.32
計	男	1,090	59	5.41	88	8.07	77	7.06	224	20.55
	女	1,061	59	5.56	81	7.63	63	5.94	203	19.13
總計		2,151	118	5.49	169	7.86	140	6.51	427	19.85

第五章 Tuberculin 反應ト榮養狀態

第一節 被檢兒童ノ榮養狀態

兒童ノ榮養狀態判定ニ就イテハ、現今、幾多ノ方式應用セラレ、各々一長一短アリ、又學者ニ依リ其ノ意見隔々ニシテ何レガ適當ナルヤ俄カニ決定シ難シ。之レヲ歐米ノ方法ニ求ムルニ、例ヘバブローカ氏法、エーテル氏法、ボルンハルト氏法、ブルグシユ氏法、ビーネ氏法アレド、外國人ノ判定方式ヲ以テ直チニ邦人ニ應用スルハ考慮ヲ要ストコロニシテ、更ニ本邦ニ行ハル、方法ヲ徵スルニ、亦、鶴見氏法、近藤氏法、大串氏法、宮川氏法等、其ノ方式甚ダ多シ。余等ハ宮川氏榮養標價表ニ從ヒ、次ノ計算式ヲ採用シテ判定ヲナセリ。

$$\frac{100\sqrt[3]{K \cdot G \times 10}}{S \cdot H} \times K = I$$

K.G 體重 gr. S.H 坐高 cm. K 常數, I 榮養指數ヲ示シ、K ハ次ノ計算式ニヨル

$$\frac{S.H}{K.L} \text{ (邦人)} = K \quad \frac{S.H}{K.L} \text{ (歐人)}$$

K.L 身長 cm

此ノ計算式ニ依リ得タル指數 80—90 ヲ榮養不

良、90—95 ヲ榮養中等、95—100、ヲ榮養良、100—105、ヲ榮養過良トシ、被檢兒童ノ榮養狀態ヲ區分セリ。

被檢兒童ノ榮養狀態ヲ、A.B.C. 各校兒童別ニ調査スルニ、第 11—13 表ノ如クニシテ、之レヲ總括スルニ、第 14 表ノ如ク、總人員 2151 名ニ對シテ、榮養過良、39 名 (1.81%)、榮養良 514 名 (23.89%) ニシテ、之レヲ年齡的ニ觀ルニ、7 年 16 名 (5.78%) ヲ最低トシ、年齡的ニ遞増シ、13 年 70 名 (43.21%) 14 年、38 名 (46.91%) トナル。榮養中等、1235 名 (57.41%) ニシテ 14 年 30 名 (37.04%) ヲ最低トシテ 13 年 63 名 (38.90%) 之レニ亞ギ、幾分ノ動搖ヲ認ムルモ、年齡的ニ遞減シ、此ノ關係、榮養良ト全ク逆ノ關係ヲ示ス。

榮養不良、363 名 (16.88%) ニシテ、14 年 5 名 (6.17%) ヲ最低率トシテ、之レモ亦年齡ノ若キモノ程高率ヲ示シ 7 年 112 名 (40.43%) ヲ最高トス、由是觀之、兒童榮養狀態ハ年長ニ進ムニ從ヒ、漸次良好ニナリツ、アル傾向ヲ認ム。被檢兒童全員中、榮養中等ハ其ノ過半ヲ占メ、榮養良、榮養不良、榮養過良ノ順位トナル。

第 11 表 男女兒榮養指數ニ依ル一覽表 A 校

年 齡	検査人員	過 良		良		中 等		不 良	
		實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	78	0	0	2	2.56	35	44.87	41	52.56
8	85	1	1.18	7	8.24	50	58.82	27	31.76
9	90	1	1.11	16	17.78	46	51.11	27	30.00
10	113	2	1.77	23	20.35	75	66.37	13	11.50
11	99	1	1.01	18	18.18	68	68.69	12	12.12
12	77	2	2.60	19	24.68	43	55.84	13	16.88
13	81	9	11.11	36	44.44	31	38.27	5	6.17
14	69	6	8.70	33	47.83	25	36.23	5	7.25
計	692	22	3.18	154	22.25	373	53.90	143	20.66

第 12 表 男女兒榮養指數ニ依ル一覽表 B 校

年 齡	検査人員	過 良		良		中 等		不 良	
		實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	104	0	0	9	8.65	60	57.69	35	33.65

8	154	0	0	26	16.88	97	62.99	31	20.13
9	155	1	0.65	16	10.32	103	66.45	35	22.58
10	114	2	1.75	40	35.09	67	58.77	5	4.40
11	72	1	1.39	21	29.18	48	66.67	2	2.78
12	92	2	2.17	40	43.48	44	47.83	6	6.52
13	81	4	4.94	34	41.98	32	39.51	11	13.58
14	12	2	16.67	5	41.67	5	41.67	0	0
計	784	12	1.53	191	24.36	456	58.16	125	15.94

第 13 表 男女兒榮養指數 = 依ルー覽表 C 校

年 齡	檢査人員	過 良		良		中 等		不 良	
		實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	95	0	0	5	5.26	54	55.84	36	37.89
8	114	0	0	16	14.04	76	66.67	22	19.30
9	82	0	0	22	26.83	49	59.76	11	13.41
10	135	1	0.74	35	25.93	88	65.19	11	8.15
11	135	2	1.48	45	33.33	78	57.78	10	7.41
12	114	2	1.75	46	40.35	61	53.51	5	4.40
計	675	5	0.74	169	25.04	406	60.15	95	14.07

第 14 表 男女兒榮養指數 = 依ルー覽表 A.B.C 校計

年 齡	檢査人員	過 良		良		中 等		不 良	
		實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	277	0	0	16	5.78	149	53.79	112	40.43
8	353	1	0.28	49	13.88	223	63.17	80	22.66
9	327	2	0.61	53	16.51	198	60.55	73	22.32
10	362	5	1.38	98	27.07	230	63.54	29	8.01
11	306	4	1.31	84	27.45	194	63.40	24	7.84
12	283	6	2.12	105	37.10	148	52.30	24	4.48
13	162	13	8.03	70	43.21	63	38.90	16	9.87
14	81	8	9.88	38	46.91	30	37.04	5	6.17
計	2,151	39	1.81	514	23.89	1,235	57.41	363	16.88

第二節 Tuberculin 反應ト榮養狀態トノ關係

Tuberculin 反應ト榮養狀態トノ關係ニ就イテ之レヲ觀察スルニ、A 校ニ於テハ第 15 表ノ如シ。即チ榮養過良ハ檢査人員少數ナルヲ以テ除外シ、榮養良ハ反應陽性者、7 年 8 年共ニ零ニシテ、年齢ニ陽性率ハ上昇ヲ示シ、13 年 44.44%ヲ最高率トス。榮養中等ニ於テモ榮養良ト全ク同一ノ成績ヲ示シ、13 年 58.06%ヲ最高率トス。

榮養不良ハ 8 年 7.41%ヲ最低トシ 10 年ニ及ビ著シク上昇シ 13 年 40.00%ヲ最高率トス。

A 校兒童榮養狀態ト Tuberculin 反應陽性トノ關係ヲ觀ルニ榮養過良 36.36%ヲ最高トシ榮養良 25.32%、榮養中等 20.65%、榮養不良 18.18%ノ順位トナル。

B 校兒童ニ就イテハ第 16 表ノ如ク、榮養良、8 年、3.85%ヲ最低トシ、年齢ト陽性率トハ必シモ比例セズ、13 年最高率ニシテ 38.24%トナル。

榮養中等ハ、11 年及ビ 13 年ヲ例外トシテ、其他年齡ニ比例シ、即チ 7 年、13.83%ヲ最低トシ、14 年、40.00%ヲ最高率トス。

榮養不良ハ、7 年 8.57%ヲ最低トシ、11 年、50.00%ヲ最高率トスルモ、年齡的ニ著シク動搖ヲ認ム。

B 校ニ於ケル Tuberculin 反應陽性率ハ、榮養過良、25.00%、榮養良、17.84%、榮養中等、17.98%、榮養不良、13.60%ニシテ、之レ A 校ニ於ケル成績ト略一致ス。

C 校兒童ニ就イテハ第 17 表ニ示スガ如シ。榮養良ハ 7 年零ニシテ、9 年、8 年、11 年、10 年ノ順ヲ以テ陽性率ハ上昇シ 12 年ニ至リ、最高率 36.96%トナル。

榮養中等ハ、11 年ヲ例外シテ、略々年齡的ニ陽性率ハ上昇ヲ示ス。

榮養不良ハ、8 年 9.09%ヲ最低トシテ、11 年、12 年ニ於テ例外ヲ認ムルモ、之レ亦、概ネ年齡的ニ陽性率ノ上昇スルモノナリ。

以上ニ據ツテ C 校ニ於ケル Tuberculin 反應陽性兒童ヲ榮養狀態カラ觀察スルニ、榮養過良、60.00%、榮養良、23.67%、榮養中等、20.44%、榮養不良、15.79%ニシテ、此ノ關係ハ前記 A. B. 二校ニ於ケル成績ト一致ス。

Tuberculin 反應陽性ト榮養狀態トノ關係ニ就テ、之レヲ總括スルニ第 18 表ニ示スガ如シ。

榮養良ハ 8 年(6.12%)ヲ最低トシテ、多少ノ動搖ヲ認ムルモ、略々、年齡的ニ上昇シ、13 年(41.43%)ヲ最高率トシ、之レ先人ノ業績ト一致ス。榮養中等モ亦、11 年及ビ 14 年ニ稍々低率ヲ見ルモ概ネ年齡ニ比例シ陽性率ヲ増スコト、榮養良、ニ同ジ。

榮養不良ハ 8 年(10.00%)ヲ最低トシ、11 年(33.33%)ヲ最高トスルモ大體年齡ニ比例シ上昇スルモノナリ。

更ニ Tuberculin 陽性兒童ト榮養狀態トノ關係ヲ年齡別ヨリシテ觀察ヲ試ムルニ次ノ如シ。即チ 7 年ニテハ、陽性率ハ、榮養良ニ最モ高く、12.50%ニシテ、榮養不良、11.61%、榮養中等

9.40%ノ關係ヲ示ス。

8 年ニテハ、榮養中等、榮養不良、榮養良ノ順位ニアリ。

9 年ニテハ、8 年ニ同ジ。

10 年ニテハ、榮養不良首位ヲ占メ、榮養中等、榮養良ノ順トナル。

11 年ニテハ、榮養不良、榮養良、榮養中等ノ順位ヲ示ス。

12 年ニテハ榮養良ヲ最高率トシ、榮養中等、榮養不良ノ順位ナリ。

13 年ニテハ 12 年ニ全く同一ノ關係ナリ。

14 年ニテハ、榮養中等ヲ首位トシ、榮養良、之レニ亞ギ榮養不良ヲ低位トス。

由是、年齡的ニ、榮養狀態ト、Tuberculin 反應陽性率トノ關係ヲ見ルニ、乍然タル差異ヲ認メ得ザルモ、榮養良、榮養中等、榮養不良ノ何レヲ通ジテ、7 年及ビ 8 年ニ低率ニシテ 13 年ニ於テ最高率ヲ示スヲ見ル。而シテ Tuberculin 反應陽性ハ年齡的ニ逐次増率スルモノナルヲ以テ、之レ當然ノ結果タルベシ。

是等ノ成績ニ據ツテ、兒童ノ榮養狀態ト Tuberculin 反應陽性トノ關係ヲ總括スルニ、榮養過良兒童 39 名ニ對シテ、陽性兒童 14 名(35.90%)ヲ最高率トシ、榮養良兒童 514 名ニ對シテ 113 名(21.89%)榮養中等兒童 1235 名ニ對シテ 242 名(19.60%)榮養不良兒童 363 名ニ對シテ 58 名(15.98%)ノ順位トナレドモ、其ノ差異僅カニ 3—5%ニ過ギズ、要之、榮養狀態ト Tuberculin 反應トノ關係ハ特別ナル意義ヲ認メ難ク、之レ亦、先人ノ業績ト其ノ結果ヲ同ジクスルトコロナリ。

第 15 表 榮養狀態ト「ツ」反應トノ關係 (年齡別) A 校

年齢	検査人員	榮養指數	實數	「ツ」反應陽性數	百分率
7	78	過良	0	0	0
		良	2	0	0
		中等	35	2	5.71
		不良	41	5	12.20

8	85	過 良	1	1	100.00
		良	7	0	0
		中 等	50	5	10.00
		不 良	27	2	7.41
9	90	過 良	1	0	0
		良	16	1	6.25
		中 等	46	8	17.39
		不 良	27	4	14.81
10	113	過 良	2	0	0
		良	23	1	4.35
		中 等	75	11	14.80
		不 良	13	4	30.77
11	99	過 良	1	1	100.00
		良	18	2	11.11
		中 等	63	13	19.12
		不 良	12	4	33.33
12	77	過 良	2	1	50.00
		良	19	7	37.00
		中 等	43	12	27.91
		不 良	13	4	30.77
13	81	過 良	9	3	33.33
		良	36	16	44.44
		中 等	31	18	58.06
		不 良	5	2	40.00
14	69	過 良	6	2	33.33
		良	33	12	36.36
		中 等	25	8	32.00
		不 良	5	1	20.00
計	692	過 良	22	8	36.36
		良	154	39	25.32
		中 等	373	77	20.65
		不 良	143	26	18.18

第 16 表 榮養狀態ト「ツ」反應トノ關係
(年齡別) B校

年齡	検査人員	榮養指數	實 數	「ツ」反應陽性數	百分率
7	104	過 良	0	0	0
		良	9	2	22.22
		中 等	60	8	13.33
		不 良	35	3	8.57
8	154	過 良	0	0	0
		良	26	1	3.85
		中 等	97	13	13.40
		不 良	31	4	12.90

9	155	過 良	1	0	0
		良	16	3	18.75
		中 等	103	20	19.42
		不 良	35	4	11.43
10	114	過 良	2	0	0
		良	40	2	5.00
		中 等	67	15	22.39
		不 良	5	2	40.00
11	72	過 良	1	0	0
		良	21	6	28.57
		中 等	48	6	12.50
		不 良	2	1	50.00
12	92	過 良	2	0	0
		良	40	7	17.50
		中 等	44	12	27.27
		不 良	6	1	16.67
13	81	過 良	4	2	50.00
		良	34	13	38.24
		中 等	32	6	18.75
		不 良	11	2	18.18
14	12	過 良	2	1	50.00
		良	5	0	0
		中 等	5	2	40.00
		不 良	0	0	0
計	784	過 良	12	3	25.00
		良	191	34	17.84
		中 等	456	82	17.98
		不 良	125	17	13.60

第 17 表 榮養狀態ト「ツ」反應トノ關係
(年齡別) C校

年齡	検査人員	榮養指數	實 數	「ツ」反應陽性數	百分率
7	95	過 良	0	0	0
		良	5	0	0
		中 等	54	4	7.47
		不 良	36	5	13.89
8	114	過 良	0	0	0
		良	16	2	12.50
		中 等	76	13	17.11
		不 良	22	2	9.09
9	82	過 良	0	0	0
		良	22	2	9.09
		中 等	49	10	20.41
		不 良	11	2	18.18

10	135	過 良	1	1	100.00
		良	35	10	28.57
		中 等	88	23	26.14
		不 良	11	2	18.18
11	135	過 良	2	1	50.00
		良	45	9	20.00
		中 等	78	16	20.51
		不 良	10	3	33.33
12	114	過 良	2	1	50.00
		良	46	17	36.96
		中 等	61	17	27.87
		不 良	5	1	20.00
計	675	過 良	5	3	60.00
		良	169	40	23.67
		中 等	406	83	20.44
		不 良	95	15	15.79

13	162	過 良	13	5	38.46
		良	70	29	41.43
		中 等	63	24	38.10
		不 良	16	4	25.00
14	81	過 良	8	3	37.50
		良	38	12	31.58
		中 等	30	10	33.33
		不 良	5	1	20.00
計	2.151	過 良	39	14	35.90
		良	514	113	21.89
		中 等	1.235	242	19.60
		不 良	363	58	15.98

第 18 表 榮養狀態ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) A.B.C 校計

年齡	檢査人員	榮養指數	實 數	「ツ」反應陽性數	百分率
7	277	過 良	0	0	0
		良	16	2	12.50
		中 等	149	14	9.40
		不 良	112	13	11.61
8	353	過 良	1	1	100.00
		良	49	3	6.12
		中 等	223	31	13.90
		不 良	80	8	10.00
9	327	過 良	2	0	0
		良	54	6	11.11
		中 等	198	38	19.20
		不 良	73	10	13.70
10	362	過 良	5	1	20.00
		良	98	13	13.27
		中 等	230	49	21.30
		不 良	29	8	27.59
11	306	過 良	4	2	50.00
		良	84	17	20.24
		中 等	194	35	18.04
		不 良	24	8	33.33
12	283	過 良	6	2	33.33
		良	105	31	29.52
		中 等	148	41	27.70
		不 良	24	6	25.00

第三節 Tuberculin 反應程度ト 榮養狀態トノ關係

Tuberculin 反應ト榮養狀態トノ關係ニ就イテハ既ニ前節ニ述ベタルガ、余等ハ更ニ進ミテ、反應程度ヲ、強陽性(卅)中等度陽性(卅)弱陽性(十)ニ區分シ、其ノ各反應程度ト榮養狀態トノ關係ヲ考察セルニ第 19—34 表ノ如キ成績ヲ得タリ。

榮養過良ニアリテハ、第 22 表ノ如ク、(卅)(卅)(十)何レモ檢査人員僅少ナルヲ以テ統計的價値ニ乏シ。

榮養良ニアリテハ第 26 表ノ如ク

(卅)ハ 7 年稍々高率ナルモ、特ニ年齡的ニ差異ヲ認メ難シ。

(卅)(十)何レモ、概ネ年齡ニ伴ヒ漸次高率トナル。

榮養中等ニアリテハ第 30 表ノ如ク、

(卅)ハ 13 年ニ特ニ低キヲ例外トシテ年齡的ニ大ナル差異ヲ認メ難シ。

(卅)ハ 10 年ヲ例外トシテ年齡ト共ニ増率ス。

(十)ハ年齡的ニ動搖ヲ認ムルモ其ノ差著シカラズ。

榮養不良ニアリテハ第 34 表ノ如ク、

(卅)ハ年齡的ニ動搖著シク 7 年(1.79%)ニ對シテ 12 年(16.67%)ヲ示ス。

(卅)(十)共ニ動搖アリテ年齡的關係ヲ認メ難シ。

由是、Tuberculin 反應程度ト榮養狀態トノ關

係ヲ總括的ニ觀ルニ、

榮養過良、39名ニ對シテ(卅)2名(5.13%) (卅)4名(10.26%) (+)8名(20.51%)ニシテ、弱陽性最モ多シ。

榮養良、514名ニ對シテ、(卅)28名(5.45%)ニシテ、(卅)44名(8.56%)、(+)41名(7.98%)ニシテ、中等度陽性及ビ弱陽性最モ多ク、相伯仲ス。

榮養中等、1235名ニ對シ、(卅)69名(5.59%) (卅)96名(7.77%) (+)77名(6.24%)ニシテ、中等度陽性首位ヲ占メ、弱陽性、強陽性ノ順トナル。

榮養不良、363名ニ對シ(卅)19名(5.23%)、(卅)25名(6.89%)、(+)14名(3.86%)ニシテ、中等度陽性最高率ヲ示ス。

Tuberculin 反應程度ト、榮養狀態トノ關係ヲ

總括スルニ、第35表ノ如ク、

強陽性兒童118名ニ對シテ、榮養過良2名(15.13%)、榮養良28名(5.45%)、榮養中等、69名(5.51%)、榮養不良、19名(5.23%)ニシテ、榮養過良ヲ例外トスレバ、其他大ナル差異ヲ認メ難シ。

中等度陽性兒童、169名ニ對シテ、榮養過良4名(10.26%)、榮養良24名(8.56%)榮養中等、96名(7.77%)、榮養不良25名(7.16%)ニシテ、特ニ榮養狀態トノ著シキ、差ヲ認メズ。

弱陽性兒童、140名ニ對シテ、榮養過良、8名(20.51%) 榮養良、41名(7.98%) 榮養中等77名(6.24%) 榮養不良、14名(3.86%)ナリ。

要之、Tuberculin 反應程度ト、榮養狀態トノ關係ニ就イテハ特別ナル意義ヲ認メ難シ。

第 19 表 榮養過良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) A校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	0	1	1	2	1	2	9	6	22
「ツ」反應卅實數	0	0	0	0	1	0	1	0	2
百 分 率	0	0	0	0	100.00	0	11.11	0	9.09
卅 實 數	0	1	0	0	0	1	0	1	3
百 分 率	0	100.00	0	0	0	50.00	0	16.67	13.67
十 實 數	0	0	0	0	0	0	2	1	3
百 分 率	0	0	0	0	0	0	22.22	16.67	13.67

第 20 表 榮養過良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) B校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	0	0	1	2	1	2	4	2	12
「ツ」反應卅實數	0	0	0	0	0	0	0	0	0
百 分 率	0	0	0	0	0	0	0	0	0
卅 實 數	0	0	0	0	0	0	0	1	1
百 分 率	0	0	0	0	0	0	0	50.00	8.33
十 實 數	0	0	0	0	0	0	2	0	2
百 分 率	0	0	0	0	0	0	50.00	0	16.67

第 21 表 榮養過良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) C校

年 齡	7	8	9	10	11	12	計
人 員	0	0	0	1	2	2	5
「ツ」反應卅實數	0	0	0	0	0	0	0
百 分 率	0	0	0	0	0	0	0
卅 實 數	0	0	0	0	0	0	0

百分率	0	0	0	0	0	0	0
十實數	0	0	0	1	1	1	3
百分率	0	0	0	100.00	50.00	50.00	60.00

第 22 表 榮養過良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) A.B.C 校計

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	0	1	2	5	4	6	13	8	39
「ツ」反應卅實數	0	0	0	0	1	0	1	0	2
百分率	0	0	0	0	25.00	0	7.69	0	5.13
十實數	0	1	0	0	0	1	0	2	4
百分率	0	100.00	0	0	0	16.67	0	25.00	10.26
十實數	0	0	0	1	1	1	4	1	8
百分率	0	0	0	20.00	25.00	16.67	30.77	12.50	20.51

第 23 表 榮養良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) A 校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	2	7	16	23	18	19	36	33	154
「ツ」反應卅實數	0	0	0	1	0	4	1	2	8
百分率	0	0	0	4.35	0	21.05	2.78	6.06	5.19
十實數	0	0	1	0	0	1	8	4	14
百分率	0	0	6.25	0	0	5.26	22.22	12.12	9.09
十實數	0	0	0	0	2	2	7	6	17
百分率	0	0	0	0	11.11	10.53	19.44	18.18	11.04

第 24 表 榮養良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) B 校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	9	26	16	40	21	40	34	5	191
「ツ」反應卅實數	2	0	2	1	2	2	2	0	11
百分率	22.22	0	12.50	2.50	9.52	5.00	5.88	0	5.76
十實數	0	1	1	1	3	2	8	0	16
百分率	0	3.84	6.25	2.50	14.29	5.00	23.53	0	8.38
十實數	0	0	0	0	1	3	3	0	7
百分率	0	0	0	0	4.76	7.50	8.82	0	3.66

第 25 表 榮養良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) C 校

年 齡	7	8	9	10	11	12	計
人 員	5	16	22	35	45	46	169
「ツ」反應卅實數	0	0	0	4	3	2	9
百分率	0	0	0	11.43	6.67	4.35	5.33
十實數	0	1	2	3	3	5	14
百分率	0	6.25	9.09	8.57	6.67	10.87	8.28
十實數	0	1	0	3	3	10	17
百分率	0	6.25	0	8.57	6.67	21.74	10.06

第 26 表 榮養良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) A.B.C 校計

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	16	49	54	98	84	105	70	38	514
「ツ」反應卅實數	2	0	2	6	5	8	3	2	28
百 分 率	12.50	0	3.70	6.12	5.95	7.62	4.29	5.27	5.45
卅 實 數	0	2	4	4	6	8	16	4	44
百 分 率	0	4.08	7.41	4.08	7.14	7.62	22.76	10.53	8.56
十 實 數	0	1	0	3	6	15	10	6	41
百 分 率	0	2.04	0	3.06	7.14	14.28	14.29	15.79	7.98

第 27 表 榮養中等者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) A 校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	35	50	46	75	68	43	31	25	373
「ツ」反應卅實數	2	2	3	6	8	9	2	0	32
百 分 率	5.71	4.00	6.52	8.00	11.76	20.93	6.45	0	8.58
卅 實 數	0	2	3	2	4	1	6	5	23
百 分 率	0	4.00	6.52	2.67	5.88	2.33	19.35	20.00	6.17
十 實 數	0	1	2	3	1	2	10	3	22
百 分 率	0	2.00	4.35	4.00	1.47	4.65	32.26	12.00	5.90

第 28 表 榮養中等者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) B 校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	60	97	103	67	48	44	32	5	456
「ツ」反應卅實數	1	6	6	6	2	2	0	2	25
百 分 率	1.67	6.18	5.83	8.96	4.17	4.55	0	40.00	5.48
卅 實 數	4	5	9	6	3	5	3	0	35
百 分 率	6.67	5.16	8.74	8.96	6.25	11.36	9.38	0	7.68
十 實 數	3	2	5	3	1	5	3	0	22
百 分 率	5.00	2.06	4.85	4.48	2.08	11.36	9.38	0	4.83

第 29 表 榮養中等者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) C 校

年 齡	7	8	9	10	11	12	計
人 員	54	76	49	88	78	61	406
「ツ」反應卅實數	1	3	2	4	2	0	12
百 分 率	1.85	3.96	4.08	4.55	2.56	0	2.96
卅 實 數	1	7	3	7	10	10	38
百 分 率	1.85	9.21	6.12	7.95	12.82	16.39	9.36
十 實 數	2	3	5	12	4	7	33
百 分 率	3.71	3.96	10.20	13.64	5.13	11.48	8.13

第 30 表 榮養中等者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) A.B.C 校計

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	149	223	198	230	194	148	63	30	1,235
「ツ」反應卅實數	4	11	11	16	12	11	2	2	69
百 分 率	2.68	4.93	5.51	6.96	6.18	7.43	3.17	6.67	5.59

+	實 數	5	14	15	15	17	16	9	5	96
	百 分 率	3.36	6.27	7.58	6.52	8.76	10.81	14.28	16.67	7.77
+	實 數	5	6	12	18	6	14	13	3	77
	百 分 率	3.36	2.69	6.06	7.83	3.09	9.46	20.63	10.00	6.24

第 31 表 榮養不良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) A校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	41	27	27	13	12	13	5	5	143
「ツ」反應卅實數	1	1	0	2	2	3	1	0	10
百 分 率	2.44	3.70	0	15.38	16.67	23.08	20.00	0	6.98
+	實 數	4	1	4	2	0	0	1	12
百 分 率	9.76	3.70	14.81	15.38	0	0	20.00	0	8.39
+	實 數	0	0	0	0	2	1	0	4
百 分 率	0	0	0	0	16.67	7.69	0	20.00	2.79

第 32 表 榮養不良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) B校

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	35	31	35	5	2	6	11	0	125
「ツ」反應卅實數	1	2	2	0	1	1	0	0	7
百 分 率	2.86	6.45	5.71	0	50.00	16.67	0	0	4.80
+	實 數	1	1	2	2	0	2	0	8
百 分 率	2.86	3.23	5.71	40.00	0	0	18.18	0	6.40
+	實 數	1	1	0	0	0	0	0	2
百 分 率	2.86	3.23	0	0	0	0	0	0	1.60

第 33 表 榮養不良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) C校

年 齡	7	8	9	10	11	12	計
人 員	36	22	11	11	10	5	95
「ツ」反應卅實數	0	1	1	0	0	0	2
百 分 率	0	4.56	9.09	0	0	0	2.11
+	實 數	2	0	0	1	2	5
百 分 率	5.57	0	0	9.09	20.00	0	5.26
+	實 數	3	1	1	1	1	8
百 分 率	8.33	4.56	9.09	9.09	10.00	20.00	8.42

第 34 表 榮養不良者ト「ツ」反應トノ關係(年齡別) A.B.C 校計

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計
人 員	112	80	73	29	24	24	16	5	363
「ツ」反應卅實數	2	4	3	2	3	4	1	0	19
百 分 率	1.79	5.00	4.11	6.90	12.50	16.67	6.25	0	5.23
+	實 數	7	2	6	5	2	0	3	25
百 分 率	6.25	2.50	8.22	17.25	8.33	0	18.75	0	6.89
+	實 數	4	2	1	1	3	2	0	14
百 分 率	3.57	2.50	1.37	3.45	12.50	8.33	0	20.00	3.86

第 35 表 「ツ」反應陽性程度ト榮養狀態トノ關係 A.B.C 校計

「ツ」反應陽性程度	陽性者總數	榮養區分	實數	陽性者總數ニ對スル百分率	「ツ」反應陽性程度	陽性者總數	榮養區分	實數	陽性者總數ニ對スル百分率
卅	118	過 良	2	1.70	+	140	過 良	8	5.71
		良	28	23.73			良	41	29.29
		中 等	69	58.47			中 等	77	55.00
		不 良	19	16.10			不 良	14	10.00
++	169	過 良	4	2.37	計	427	過 良	14	3.28
		良	44	26.04			良	113	26.46
		中 等	96	56.80			中 等	242	56.67
		不 良	25	14.80			不 良	58	13.58

第六章 Tuberculin 反應ト頸部淋巴腺腫脹

第一節 頸部淋巴腺腫脹狀

態ニ就イテ

頸部淋巴腺腫脹ニ就イテハ曩キニ、宇留野、佐藤、木村、Paelchau、平澤及ビ高橋、高橋、杉本、高橋、上林、砂川ノ諸氏ノ詳細ナル檢査報告アリ。抑々、小兒ノ頸部淋巴腺ハ頗ル多數ニ腫脹スルモノニシテ、其ノ原因トシテハ、頭部ニ於ケル濕疹、口腔、鼻腔、耳内等ノ種々ナル炎症ノ結果トシテ來ルコト屢々ナリ。仍テ頸部淋巴腺ノ腫脹 50%ヲ報告シ、平澤及ビ高橋兩氏ハ 1190 名ノ兒童ニ就イテ、檢査ノ結果、頸腺腫脹兒童、829 名ヲ得、其ノ中 Tuberculin 反應陽性兒童 687 名 (82.8%) 陰性兒童 132 (17.2%)ニシテ、頸腺腫脹兒童ニ、Tuberculin 反應陽性ノ著シク多數ナルコトヲ報告ス。又高橋、上林氏等ハ Tuberculin 反應陽性兒童ニ 80—90%ノ頸腺腫脹ヲ報告シ、辻川氏ハ、小兒結核 26 名中、22 名 (85.0%)ニ頸腺腫脹ヲ認メ、高橋、杉本兩氏ハ Tuberculin 反應陽性兒童ヲ以テ、之レヲ直チニ結核性トナスハ當ラザルトコロナレド、結核性及ビ非結核性トノ鑑別ハ頗ル難事ニ屬ス。

余等ハ、A 校兒童 629 名ニ對シテ、頸部淋巴腺腫脹ノ狀態ヲ檢査シ、之レガ Tuberculin 反應トノ關係ニ就イテ調査ヲ試ミタリ。

文獻ヲ按ズルニ、宇留野氏ハ、頸腺腫脹兒童、127 名中、Tuberculin 反應陽性兒童、39.30%

ヲ認メ、佐藤、木村兩氏ハ 278 名中、83.7%ナリト報告シ Paelchau ハ 100 名ニ就テ男兒 51.4—54.2%、女兒 46.1—46.7%ニ頸腺腫脹ヲ認メ結核感染ト特別ノ關係ナキコトヲ唱へ、砂川氏ハ奈良縣下小學校兒童ニ就イテ、檢査ノ結果、Tuberculin 反應陽性ノ高キヲ報告セリ。頸部淋巴腺腫脹ノ檢査ニ當リテ、余等ハ、高橋、上林氏等ノ檢査方法ニ倣ヒ、其ノ大サ、位置、硬軟、ニヨリ次ノ標準ヲ以テ區分シ觀察セリ。

- 1) 頸腺腫脹、強。拇指頭大 1 個以上、示指頭大竝ニ小指頭大 2—3 個以上、其他蠶豆大、豌豆大、等多數ニ腫脹スルモノ。
- 2) 頸腺腫脹、中。示指頭大、小指頭大各 1 個、蠶豆大 2—3 個以上。
- 3) 頸腺腫脹、弱、小豆大、米粒大、乃至豌豆大 1—2 個腫脹セルモノ。

而シテ、頸腺腫脹發生部位ニ就イテハ之レヲ、3 部位ニ區分セリ。

即チ、胸鎖乳嚙筋ヲ境界トシテ、其ノ上方及ビ顎下部ヲ第 1 部位、其ノ後方ヲ第 2 部位、舌下及ビ氣管ノ兩側ヲ第 3 部位トセリ。

第一項 第 1 部位ニ於ケル頸腺腫脹

第 1 部位ニ於ケル、頸腺腫脹ハ第 36 表ノ如ク、之レヲ性的ニ觀ルニ、男女兒何レニ多キヤハ、各年毎ニ其ノ關係ヲ異ニシ一定セザルモ、總括スルニ男兒 52.49%ニ對シテ、女兒 41.16%ニシテ、男兒 11.33%ノ高率ヲ示ス。

年齢的ニ其ノ關係ヲ觀ルニ、13 年 69.14 %ヲ最高率トシ、14 年 60.87 %之レニ亞ギ、7 年 29.93 %ヲ最低率トシテ、大體年齢ノ長ズルニ比例シ頸腺腫脹ノ頻度ヲ増加ス。

更ニ、腫脹程度ニ就イテハ第 37 表ニ示スガ如ク、

強度腫脹ハ、之レヲ性別ニ區分シテ觀ルニ、各年毎ニ動搖アリト雖モ、總括スルニ、男兒 9.71 %ニ對シテ、女兒 5.78 %ニシテ男兒ハ女兒ニ比シテ 3.93 %ノ高率ヲ示ス。又、之レヲ年齢別ニ觀ルニ、腫脹ノ頻度必シモ年齢ト比例セズ即チ、13 年 14.08 %ヲ最高トシ、10 年 12.40 % 11 年、8.08 %、12 年、7.80 %、8 年 5.88%、9 年 5.56 %、7 年 5.13%、14 年 4.35 %ノ順位ニシテ平均 7.95 %トナル。

中等度腫脹ハ、之レヲ性別ニ觀ルニ、各年毎ニ其ノ關係ヲ異ニシ、男女兒何レガ高率ナルヤ一定セザルモ、總括スルニ、男兒 27.56 %ニ對シテ女兒 20.90 %ニシテ、男兒 6.66 %ノ高率トナル。

年齢別ニテハ 13 年 48.15 %ヲ最高率トシ、14 年 43.48 %、12 年 25.97 %、9 年 25.56 %、11 年 25.25 %、8 年 14.12 %、10 年 12.40 %、7 年 8.97 %ノ順位ニシテ必シモ年齢ト比例セズ。輕度腫脹ヲ性別ニ觀ルニ、男女兒何レガ高率ナルカハ各年毎ニ異レドモ、總括スルニ男兒 15.22 %ニ對シテ、女兒 14.47 %ニシテ、略々相伯仲ス。

年齢的ニハ 12 年 20.78 %最高率ニシテ、9 年 21.11 %、11 年 19.19 %、10 年 13.27 %、14 年 13.04 %、7 年 12.82 %、8 年 9.41 %、13 年 8.64 %ノ順位トナリ、之レ亦必シモ年齢ニ比例セズ。

要之、第 1 部位ニ於ケル頸腺腫脹ハ、性別ニハ強度腫脹、中等度腫脹ニアリテハ男兒ハ女兒ニ比シテ高率ニシテ、輕度腫脹ハ男女兒殆ト同率ナリ。

年齢ト頸腺腫脹ニハ一定ノ關係ヲ認メズ。

腫脹程度ニ就イテハ中等度腫脹首位ヲ占メ、輕度腫脹、強度腫脹ノ順位ヲ示ス。

第 36 表 頸 腺 腫 脹 (第 1 部 位)

年 齡	男 兒			女 兒			計		
	檢査人員	實 數	百分率	檢査人員	實 數	百分率	檢査人員	實 數	百分率
7	36	7	19.44	42	14	33.33	78	21	26.93
8	46	21	45.70	39	4	10.26	85	25	29.41
9	56	33	58.90	34	14	41.17	90	47	52.22
10	67	27	40.30	46	16	34.78	113	43	38.05
11	44	31	70.45	55	21	38.18	99	52	52.53
12	46	19	41.30	31	23	74.19	77	42	54.55
13	47	39	82.98	34	17	50.00	81	56	69.14
14	39	23	58.97	30	19	63.33	69	42	60.87
計	381	200	52.49	311	128	41.16	692	328	47.40

第 37 表 頸 腺 腫 脹 一 覽 表 (第 1 部 位)

年 齡	性 別	檢 査 人 員	頸 腺 腫 脹 度							
			卅		卅		十		計	
			實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	男	36	0	0	3	8.34	4	11.12	7	19.44
	女	42	4	9.52	4	9.52	6	14.28	14	33.33
8	男	46	5	10.87	8	17.38	8	17.38	21	45.65
	女	39	0	0	4	10.26	0	0	4	10.26

9	男	56	2	3.57	21	37.50	10	17.86	33	58.93
	女	34	3	8.82	2	5.88	9	26.47	14	41.17
10	男	67	10	14.93	10	14.93	7	10.45	27	40.30
	女	46	4	8.69	4	8.69	8	17.38	16	34.78
11	男	44	5	11.36	14	31.82	12	27.27	31	70.48
	女	55	3	5.45	11	20.00	7	12.73	21	38.18
12	男	46	3	6.52	6	13.04	10	21.75	19	41.30
	女	31	3	9.68	14	45.16	6	19.35	23	74.19
13	男	47	9	19.15	26	55.32	4	8.51	39	82.98
	女	34	1	2.94	13	38.24	3	8.82	17	50.00
14	男	39	3	7.69	17	43.59	3	7.69	23	58.97
	女	30	0	0	13	43.33	6	20.00	19	68.33
計	男	381	37	9.71	105	27.56	58	15.22	200	52.49
	女	311	18	5.78	65	20.90	45	14.47	128	41.16
總計		692	55	7.95	170	24.57	103	14.90	328	47.40

第二項 第 2 部位ニ於ケル頸腺腫脹
 第 2 部位ニ於ケル、頸腺腫脹ハ第 38 表ノ如ク、之レヲ性別ニ觀察スルニ、男女兒何レニ多キカハ各年毎ニ其ノ關係ヲ異ニスレドモ、總括スルニ、男兒、26.77%ニ對シテ、女兒、24.44%ニシテ、男兒稍々高率ヲ示ス。
 更ニ年齡別ニ觀ルニ、8 年 31.76%ヲ最高率トシ、10 年、30.09%、13 年、28.40%、14 年、27.54%、11 年 24.24%、12 年、23.38%、9 年 21.11%、7 年 17.95%ノ順位トナリ必シモ年齡ノ増加ト比例セズ。腫脹程度ニ區別シテ、之レヲ觀ルニ第 39 表ノ如ク、強度腫脹ハ、男兒 6.30%ニ對シテ、女兒 5.78%ニシテ性別大ナル差異ヲ認メズ。
 年齡別ニハ、10 年 7.97%ヲ最高トシ、9 年 7.78%、7 年 7.69%、13 年 6.17%、8 年 5.88%、14 年 5.80%、11 年 5.05%、12 年 1.30%ニシテ、特ニ關係ヲ認メ難シ。
 中等度腫脹ハ、性別ニハ、男兒 10.76%、女兒 10.29%ニシテ略々同率ナリ。

之レヲ年齡別ヨリ觀ルニ、14 年、14.49%、10 年 13.27%、8 年 11.80%、13 年 11.11%、12 年 10.39%、11 年 9.09%、9 年 7.78%、7 年 6.41%ニシテ、之レ亦年齡ト一定ノ關係ヲ認メズ。
 輕度腫脹ハ、男兒 9.71%ニ對シテ、女兒 8.36%ニシテ男兒 1.35%ノ高率ヲ示ス。
 年齡別ニハ、8 年最高ニシテ 14.12%ヲ示シ 12 年、11.69%、13 年 11.11%、11 年、10.10%、10 年 8.85%、14 年 7.25% 9 年 5.56%、7 年 3.85%ナリ。
 要之、第 2 部位ニ於ケル頸腺腫脹ハ、性別ニハ、輕度腫脹ハ男兒高率ヲ示スモ、強度腫脹、中等度腫脹ハ男女兒特ニ甚シキ差異ヲ認メズ。
 年齡的ニハ各程度ヲ通ジテ、特別ノ意義ヲ認メズ。
 腫脹程度別ニハ中等度腫脹最モ多數ニシテ、輕度腫脹之レニ亞ギ、強度腫脹最低位ナルコト、第 1 部位ニ於ケル關係ト一致ス。

第 38 表 頸 腺 腫 脹 (第 2 部 位)

年 齡	男 兒			女 兒			計		
	檢査人員	實 數	百分率	檢査人員	實 數	百分率	檢査人員	實 數	百分率
7	36	8	22.22	42	6	14.29	78	14	17.95
8	46	14	30.43	39	13	33.33	85	27	31.76

9	56	11	19.64	34	8	23.53	90	19	21.11
10	67	21	30.34	46	13	28.26	113	34	30.09
11	44	7	15.91	55	17	30.91	99	24	24.24
12	46	15	32.61	31	3	9.68	77	18	23.38
13	47	11	23.40	34	12	35.29	81	23	28.40
14	39	15	38.46	30	4	13.33	69	19	27.54
計	381	102	26.77	311	76	24.44	692	178	25.72

第 39 表 頸腺腫脹一覽表 (第 2 部位)

年 齡	性 別	檢 査 人 員	頸 腺 腫 脹 度							
			卅		卅		十		計	
			實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	男	36	3	8.34	2	5.56	3	8.34	8	22.22
	女	42	3	7.14	3	7.14	0	0	6	14.29
8	男	46	4	8.69	5	10.87	5	10.87	14	30.43
	女	39	1	2.56	5	12.82	7	17.95	13	33.33
9	男	56	3	5.36	4	7.14	4	7.14	11	19.64
	女	34	4	11.76	3	8.82	1	2.94	8	23.53
10	男	67	6	8.96	9	13.43	6	8.96	21	31.34
	女	46	3	6.52	6	13.04	4	8.69	13	28.26
11	男	44	1	2.27	1	2.27	5	11.36	7	15.91
	女	55	4	7.27	8	14.55	5	9.09	17	30.91
12	男	46	0	0	6	13.04	9	19.57	15	32.61
	女	31	1	3.23	2	6.45	0	0	3	9.68
13	男	47	3	6.39	6	12.77	2	4.26	11	23.40
	女	34	2	5.88	3	8.82	7	20.59	12	35.29
14	男	39	4	10.26	8	20.51	3	7.70	15	38.46
	女	30	0	0	2	6.67	2	6.67	4	13.33
計	男	381	24	6.30	41	10.76	37	9.71	102	26.77
	女	311	18	5.78	32	10.29	26	8.36	76	24.44
總	計	692	42	6.07	73	10.55	63	9.10	178	25.72

第三項 第 3 部位ニ於ケル頸腺腫脹
 頸腺腫脹ノ狀態ヲ、第 3 部位ニ就テ觀ルニ、第 40 表ノ如ク、性的ニハ、男兒 1.57%ニ對シテ女兒 2.25%ニシテ女兒ニ高率ナリ。
 年齡別ニハ、8 年最高 3.53%ニシテ、11 年 3.03%、之レニ亞ギ、7 年 2.56%、10 年、2.65%、14 年 1.45%、12 年 1.30%、9 年及ビ 13 年、0ニシテ、年齡的ニ關係ヲ認メズ。
 更ニ腫脹程度ニ就イテハ、第 41 表ノ如ク、強度腫脹ハ性別ニ觀ルニ男兒 0.26%、女兒 0.32%ニテ殆ンド同率ナリ。
 年齡別ニハ、特別ノ關係ヲ認メ難シ。

中等度腫脹ハ、之レヲ性別ニ觀ルニ、男兒 1.30%、女兒 1.29%ニシテ性別差異ヲ認メズ。
 年齡別ニ於テハ、7 年 2.56%、8 年 2.35%、10 年 1.77%、14 年 1.45%、12 年 1.30%、11 年 1.01%ニシテ 9 年及ビ 13 年零ニシテ之レ亦年齡ト腫脹ト一定ノ關係ヲ認メズ。
 輕度腫脹ヲ性別ニ見ルニ男兒零、女兒 0.64%ナリ。
 年齡別ニモ亦、意義ヲ認メズ。
 要之、第 3 部位ニ於ケル頸腺腫脹ハ性別ニ特別ノ差異ヲ認メズ。
 程度別ニハ中等度腫脹第一位ニシテ輕度腫脹、

第 40 表 頸 腺 腫 脹 (第 3 部 位)

年 齡	男 兒			女 兒			計		
	検査人員	實 數	百分率	検査人員	實 數	百分率	検査人員	實 數	百分率
7	36	1	2.78	42	1	2.38	78	2	2.56
8	46	1	2.17	39	2	5.13	85	3	3.53
9	56	0	0	34	0	0	90	0	0
10	67	3	4.48	46	0	0	113	3	2.65
11	44	0	0	55	3	5.45	99	3	3.03
12	46	0	0	31	1	3.23	77	1	1.30
13	47	0	0	34	0	0	81	0	0
14	39	1	2.56	30	0	0	69	1	1.45
計	381	6	1.57	311	7	2.25	692	13	1.88

第 41 表 頸腺腫脹度一覽表 (第 3 部 位)

年 齡	性 別	検査人員	頸 腺 腫 脹 度							
			卅		卅		+		計	
			實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率	實 數	百分率
7	男	36	0	0	1	2.78	0	0	1	2.78
	女	42	0	0	1	2.38	0	0	1	2.38
8	男	46	0	0	1	2.17	0	0	1	2.17
	女	39	0	0	1	2.56	1	2.56	2	5.13
9	男	56	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	34	0	0	0	0	0	0	0	0
10	男	67	1	1.50	2	2.99	0	0	3	4.48
	女	46	0	0	0	0	0	0	0	0
11	男	44	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	55	1	1.82	1	1.82	1	1.82	3	5.45
12	男	46	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	31	0	0	1	3.23	0	0	1	3.23
13	男	47	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	34	0	0	0	0	0	0	0	0
14	男	39	0	0	1	2.56	0	0	1	2.56
	女	30	0	0	0	0	0	0	0	0
計	男	381	1	0.26	5	1.30	0	0	6	1.57
	女	311	1	0.32	4	1.29	2	0.64	7	2.25
總	計	692	2	0.29	9	1.30	2	0.29	13	1.88

強度腫脹ノ順序トナル。

第二節 Tuberculin 反應ト

頸腺腫脹トノ關係

第一項 第 1 部位ニ就イテ

余等ハ、更ニ Tuberculin 反應ト頸腺腫脹トノ關係ニ就イテ、検査ヲ試ミタルニ第 42 表ノ如シ。被檢兒童 692 名中、第 1 部位ニ於ケル頸腺

腫脹兒童ハ 328 名ニシテ、ソノ中、Tuberculin 反應陽性 122 名 (37.20%) ニ對シテ、反應陰性 206 名 (62.80%) ニシテ、反應陰性兒童却テ多シ。

頸腺腫脹ヲ更ニ、其ノ程度ニ從ツテ觀ルニ、強度腫脹兒童 55 名中、反應陽性 32 名 (58.18%) ニ對シテ、陰性 23 名 (41.82%) ニシテ、陽性兒

童ニ於テ、頸腺腫脹スルモノ多シ。

中等度腫脹兒童 170 名中、陽性 66 名 (38.82%) ニシテ陰性 104 名 (61.18%) ナリシ、即チ陰性兒童ニ頸腺腫脹多シ。

輕度腫脹兒童 108 名中、陽性 24 名 (23.33%) ニ對シテ陰性 79 名 (76.70%) ニシテ、陰性兒童ニ亦頸腺腫脹ヲ多ク認ム。

要之、頸腺腫脹強度ニハ Tuberculin 反應陽性率高ク、反之、中度等及ビ輕度腫脹ニハ却チ陽性率低キヲ見ルナリ。

次ニ、年齢別ニ觀察スルニ、7 年ニテハ、頸腺腫脹兒童 21 名中、陽性 5 名 (23.81%) 陰性 16

名 (76.19%) ニシテ、8 年 25 名中、陽性 4 名 (16.00%) 陰性 21 名 (84.00%) 9 年 47 名中、陽性 10 名 (21.27%)、陰性 37 名 (78.72%)、10 年 43 名中、陽性 14 名 (32.56%) 陰性 29 名 (67.44%) 11 年 52 名中、陽性 17 名 (32.69%) 陰性 35 名 (67.31%) 12 年 42 名中、陽性 22 名 (52.38%) 陰性 20 名 (47.62%) 13 年、56 名中、陽性 33 名 (58.93%) 陰性 23 名 (41.07%)、14 年 42 名中、陽性 17 名 (40.48%) 陰性 25 名 (59.52%) ニシテ、8 年ニシテ最低率ヲ示シ、7 年及ビ 14 年ヲ除ク他、年齢長ズルニ伴ヒ、Tuberculin 反應陽性率漸次高ク 13 年ヲ最高トス。

第 42 表 頸腺腫脹ト「ツ」反應 (第 1 部位)

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計	
腫脹兒數	21	25	47	43	52	42	56	42	328	
強度腫脹	+	2	4	1	8	4	3	8	2	32
		9.53	16.00	2.12	13.63	7.69	7.14	14.29	4.76	9.76 (58.18)
-		2	1	4	6	4	3	2	1	23
		9.53	4.00	8.51	13.95	7.69	7.41	3.57	2.38	7.01 (41.82)
中等度腫脹	+	1	0	5	5	9	11	24	11	66
		4.76	0	10.64	11.63	17.31	26.19	42.86	26.19	20.12 (38.82)
-		6	12	18	9	16	9	15	19	104
		28.57	48.00	38.30	20.93	30.77	21.43	26.79	45.24	31.71 (61.18)
弱腫脹	+	2	0	4	1	4	8	1	4	24
		9.53	0	8.51	2.33	7.69	19.05	1.79	9.52	7.32 (23.30)
-		8	8	15	14	15	8	6	5	79
		38.10	32.00	31.92	32.56	28.85	19.05	10.71	11.90	24.09 (76.70)
計	+	5	4	10	14	17	22	33	17	122
		23.81	16.00	21.27	32.56	32.69	52.38	58.93	40.48	37.20
-		16	21	37	29	35	20	23	25	206
		76.19	84.00	78.72	67.44	67.31	47.62	41.07	59.52	62.80

備考 表中 () ハ腫脹程度各區分ニヨル百分率ヲ示ス

第二項 第 2 部位ニ就イテ

被檢兒童 692 名中、第 2 部位ニ於ケル頸腺腫脹兒童 178 名ニシテ、Tuberculin 反應陽性、33 名 (18.54%) 陰性 145 名 (81.46%) ノ成績ヲ得タリ。即チ、反應陰性兒童ニ却チ頸腺腫脹スルモノ多シ。

更ニ腫脹程度ニ從ツテ區別スルニ、

強度腫脹兒童 42 名中、反應陽性 12 名 (28.57%) 陰性 30 名 (71.43%) ナリ。

中等度腫脹兒童 73 名中、陽性 16 名 (21.92%) 陰性 57 名 (78.08%) ナリス。

輕度腫脹兒童 63 名中、陽性 5 名 (7.94%) 陰性

58 名 (92.06%) ニシテ、要之、各程度ノ腫脹ヲ通ジテ、反應陽性兒童ニ於テ却テ腫脹少ナキヲ見ルベシ。

更ニ之レヲ年齡的ニ觀察スルニ、7 年ニテハ、腫脹兒童 14 名中、陽性 1 名 (7.14%) 陰性 13 名 (92.86%) ニシテ、8 年 27 名全員陰性、9 年 19 名中、陽性 3 名 (15.79%) 陰性 16 名 (84.21%) 10 年 34 名中、陽性 5 名 (14.71%) 陰性 29 名

(85.29%)、11 年、24 名中、陽性 2 名 (8.33%) 陰性 22 名 (91.67%) 12 年 18 名中、陽性 3 名 (16.67%) 陰性 15 名 (83.31%)、13 年 23 名中、陽性 10 名 (43.48%) 陰性 13 名 (56.52%)、14 年 19 名中、陽性 9 名 (47.37%) 陰性 10 名 (52.62%) ニシテ、8 年ニテ最低率ヲ示シ、10 年及ビ 11 年ヲ除キ、年齡ノ増加ニ伴ヒ Tuberculin 反應陽性率モ亦増加スルヲ認ム。

第 43 表 頸腺腫脹ト「ツ」反應 (第 2 部位)

年 齡	7	8	9	10	11	12	13	14	計	
腫脹兒數	14	27	19	34	24	18	23	19	178	
強度腫脹	+	1	0	1	4	0	0	4	2	12
		7.14	0	5.26	11.76	0	0	17.39	10.53	6.74 (28.57)
—		5	5	6	5	5	1	1	2	30
		35.71	18.52	31.58	14.71	20.83	5.56	4.35	10.53	16.85 (71.43)
中等度腫脹	+	0	0	1	0	2	2	5	6	16
		0	0	5.26	0	8.33	11.11	21.74	31.58	8.99 (21.92)
—		5	10	6	15	7	6	4	4	57
		35.71	37.04	31.58	44.12	29.17	33.33	17.39	21.05	32.02 (78.08)
弱腫脹	+	0	0	1	1	0	1	1	1	5
		0	0	5.26	2.94	0	5.56	4.35	5.26	2.81 (7.94)
—		3	12	4	9	10	8	8	4	58
		21.43	44.44	21.05	26.47	41.67	44.44	34.78	21.05	32.58 (92.06)
計	+	1	0	3	5	2	3	10	9	33
		7.14	0	15.79	14.71	8.33	16.67	43.48	47.37	18.54
—		13	27	16	29	22	15	13	10	145
		92.86	100.00	84.21	85.29	91.67	83.33	56.52	52.62	81.46

備考 表中()ハ腫脹程度各區分ニヨル百分率ヲ示ス

第三項 第 3 部位ニ就イテ

被檢兒童 692 名中、第 3 部位ニ於ケル頸腺腫脹兒童 13 名ニシテ、反應陽性 3 名 (23.08%) 陰性 10 名 (76.92%) ヲ示ス。

腫脹ヲ程度ニ從ヒテ觀ルニ、強度腫脹 2 名ニシテ陽性ナシ。

中等度腫脹 9 名中、陽性 2 名 (22.22%) ニシテ陰性 7 名 (77.77%) ナリ。

輕度腫脹 2 名ニシテ陽性及ビ陰性各 1 名 (50.00%) ナリ。

之レヲ年齡的ニ觀ルニ、何レモ少數ナルヲ以テ意義ヲ認メ得ザルモ、7 年、9 年、10 年、11 年、13 年、何レモ陽性者零ニシテ、12 年 1 名中 1 名陽性、8 年 3 名中陽性 1 名ニシテ、之レ亦、頸腺腫脹スルモ Tuberculin 反應陰性ナルモノ、却テ多シ。

第四項 概 括

兒童 692 名ニ就キ、頸腺腫脹ト Tuberculin 反應トノ關係ヲ検査スルニ、部位ニ就イテハ、第 1 部位ニアリテハ、男兒 381 名中、腫脹スルモ

第 44 表 頸腺腫脹ト「ツ」反應 (第 3 部位)

年 齡		7	8	9	10	11	12	13	14	計
腫脹兒數		2	3	0	3	3	1	0	1	13
強度腫脹	+	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	1	1	0	0	0	2
		0	0	0	33.33	33.33	0	0	0	15.38 (100.00)
中等度腫脹	+	0	0	0	0	0	1	0	1	2
		0	0	0	0	0	100.00	0	100.00	15.38 (22.22)
	-	2	2	0	2	1	0	0	0	7
		100.00	66.67	0	66.67	33.33	0	0	0	53.85 (77.77)
弱腫脹	+	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		0	33.33	0	0	0	0	0	0	7.69 (50.00)
	-	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		0	0	0	0	33.33	0	0	0	7.69 (50.00)
計	+	0	1	0	0	0	1	0	1	3
		0	33.33	0	0	0	100.00	0	100.00	23.08
	-	2	2	0	3	3	0	0	0	10
		100.00	66.67	0	100.00	100.00	0	0	0	76.92

備 考 表中()ハ腫脹程度各區分ニヨル百分率ヲ示ス

ノ 200 名 (52.49%)、女兒 311 名中 128 名 (41.16%)ニシテ、男兒ニ於テ、11.33%ノ高率ヲ見ル。第 2 部位ニ於テハ、男兒 102 名 (26.77%) 女兒 76 名 (24.44%)ニシテ、之レ亦男兒、2.33%ノ高率ナリ。

第 3 部位ニアリテハ、男兒 6 名 (1.57%) 女兒 7 名 (2.52%)ニシテ大ナル差異ヲ認メズ。

次ニ腫脹程度ニ從ツテ觀察スルニ、

第 1 部位ニ於テ、男兒ニアリテハ強度腫脹 37 名 (9.71%) 中等度腫脹 105 名 (27.56%) 輕度腫脹 58 名 (15.22%)ナリ。女兒ニアリテハ、強度腫脹 18 名 (5.78%) 中等度腫脹、65 名 (20.90%) 輕度腫脹 45 名 (14.47%)ニシテ、男女兒共ニ中等度腫脹最モ多ク、輕度腫脹及ビ強度腫脹ノ順位ヲ示ス。

第 2 部位ニ於テハ、男兒ニアリテハ強度腫脹 24 名 (6.30%) 中等度腫脹 41 名 (10.76%) 輕度腫脹 37 名 (9.71%)ニシテ、女兒ニアリテハ、強度腫

脹 18 名 (5.78%) 中等度腫脹 32 名 (10.29%) 輕度腫脹 26 名 (8.36%)ニシテ、男女兒共ニ、中等度腫脹最多數ヲ占メ、輕度腫脹、強度腫脹ノ順位ヲ示ス。即チ第 1 部位ニ於ケルト同一ノ關係ニアリ。

第 3 部位ニ於テハ、男兒ニアリテハ、強度腫脹 1 名 (0.26%) 中等度腫脹 5 名 (1.30%) 輕度腫脹 零ニシテ、女兒ニアリテハ、強度腫脹 1 名 (0.32%) 中等度腫脹 4 名 (1.29%)、輕度腫脹 2 名 (0.64%)ニシテ、之レモ亦、男女兒共ニ中等度腫脹ヲ首位トシ、男兒ニテハ、強度腫脹、輕度腫脹、女兒ニテハ、輕度腫脹、強度腫脹ノ順位トナル。

更ニ頸腺腫脹ト Tuberculin 反應トノ關係ニ就イテ觀ルニ、

第 1 部位ニ於テ、腫脹兒童 328 名ニ對シテ、陽性兒童ハ 122 名 (37.20%)ニシテ陰性兒童 206 名 (62.80%)ナリ。

第2部位ニ於テハ腫脹兒童178名中、陽性兒童33名(18.54%)ナリ。

第3部位ニ於テハ腫脹兒童13名中、陽性兒童3名(23.08%)ナリ。

換言スレバ各部位ニ於ケル頸腺腫脹兒童中、Tuberculin 陽性兒童ハ、第1部位ニテハ37.20%、第2部位18.54%、第3部位、23.08%ニ

シテ、之レテ平均スルニ、30.50%ナリ。

佐藤、木村兩氏ハ83.70%、高橋、上林兩氏ハ78—80%ニシテ、之ト比較スルニ、余等ノ成績ハ著シク低ク、高橋、松本兩氏ノ男兒51.40%、女兒46.10%—46.70%ニ比較スルニ稍々低ク、宇留野氏ノ39.30%ニ近ク、砂川氏ノ16.5—17.3%ニ比シテ高率ナリ。

第七章 總括及ビ結論

余等ハ昭和9年12月5日ヨリ、昭和10年2月6日ニ互ツテ、茨城縣下ノ人口1萬以上ヲ有スル海岸ノ某町ニ在ル小學校及ビ水戸市ニ於テ、中流以上ノ家庭ノ兒童ヲ多ク收容スル小學校及ビ、比較的の下層階級ノ子弟ヲ收容スル小學校、3校ヲ選ビ、其ノ兒童2151名ニ對シテ、Mantoux 反應ヲ試ミ、之レト營養狀態及ビ頸部淋巴腺腫脹トノ關係ニ就イテ檢査ヲ施行セリ、其ノ成績ヲ總括スルニ次ノ如シ。

1. Mantoux 皮内反應成績ハ平均19.85%ニシテ、性別ニハ男兒平均20.55%ニ對シテ、女兒平均19.13%ニシテ、男兒ハ女兒ヨリ陽性率僅カニ高カシ。
2. Mantoux 皮内反應成績ハ年齢ト共ニ陽性率増加ノ傾向ヲ示シ、7年10.47%ヲ最低トシ、13年、38.27%ヲ最高率トス。
3. 今回ノ檢査成績ニテハ、其ノ陽性率ト地理的關係トニ著シキ意義ヲ認メ得ザリキ。

4. 高野氏ノ本縣壯丁ノMantoux 反應陽性率平均44.73%ニ對シテ、余等檢査成績中最高率38.27%ト比較スルニ6.46%ノ差異ヲ認ム。

5. Mantoux 反應ト兒童營養トニハ特別ノ關係ヲ認メズ。

6. 頸部淋巴腺腫脹ハ第1部位ニ最モ多ク、第3部位最モ僅少ナリ。

7. 頸部淋巴腺腫脹ハ年齢ト共ニ逐次増加ス。

8. 頸部淋巴腺腫脹ト結核感染トノ特別ノ關係ヲ認メズ。

擱筆ニ際シ、校閱ヲ賜ハリタル日本醫科大學教授行徳健助博士ニ深甚ノ謝意ヲ表シ、尙本作業施行ニ當リテ種々便宜ヲ與ヘラレシ、根本武男、照沼吉三郎、濱口造酒之介ノ三小學校長殿、學校醫小口敏英博士並ニ、所員富岡、小池、井川ノ三君ニ對シテ深謝ス。

(昭和10年8月15日脱稿)

主要引用文獻

- 1) Mantoux u. Roux, Ref. Münch. Med. Wschr. Nr. 40. S. 2117. 1908.
- 2) Mendel, Med. Klinik. Bd. I. Nr. 12. S. 402.
- 3) Hamburger u. Monti, Münch. med. Wschr. Nr. 56. S. 449 1909.
- 4) Nothmann, Arch. Kinderheilk. Bd. 53. S. 146. 1910.
- 5) Endel, Dtsch. Med. Wschr. Nr. 36. S. 1637. 1911.
- 6) Engel u. Pirquet, Handbuch der Kindertuberculose Bd. I. Bd. II. 1930.
- 7) Poelchau, Zstr. Tubr. Bd. 55. S. 483. 1930.
- 8) 有馬, 山田, 平澤, 金谷, 結核. 第7卷. 第8號.
- 9) 有馬, 山科, 不破, 結核. 第7卷. 第8號.
- 10) 有馬, 石原, 結核. 第3卷. 第2號.
- 11) 芳賀, 結核. 第5卷. 第3號.
- 12)

- 小林, 東西醫學大觀. 第12號. 第13號.
- 13) 太田, 相澤, 岡, 結核. 第10卷. 第5號. 第6號.
- 14) 瀧本, 深谷, 結核. 第10卷. 第5號.
- 15) 市古, 結核. 第10卷. 第5號.
- 16) 菊池, 軍醫團雜誌. 昭和五年. 第205號.
- 17) 柴田, 軍醫團雜誌. 昭和五年. 第205號.
- 18) 前田, 軍醫團雜誌. 第222號.
- 19) 井上, 結核. 第10卷. 第4號.
- 20) 佐々木, 軍醫團雜誌. 第240號.
- 21) 杉山, 伊藤, 軍醫團雜誌. 第249號.
- 22) 岡本, 軍醫團雜誌. 第249號.
- 23) 高田, 軍醫團雜誌. 第205號.
- 24) 小林, 軍醫團雜誌. 第205號.
- 25) 貴島, 舩松, 結核. 第9卷. 第1號.
- 26) 高野, 軍醫團雜誌. 第255號.
- 27) 有馬,

菊池, 松田, 結核. 第 8 卷. 第 2 號. 28) 岩崎, 結核. 第 9 卷. 第 10 號. 29) 小林, 結核. 第 9 卷. 第 10 號. 30) 寺島, 結核. 第 11 卷. 第 3 號. 31) 新井, 結核. 第 11 卷. 第 11 號. 32) 中俣, 結核. 第 11 卷. 第 5 號. 33) 平林, 楠, 結核. 第 11 卷. 第 5 號. 34) 松原, 結核. 第 10 卷. 第 5 號. 35) 遠藤, 黒丸, 鮎木, 結核. 第 3 卷. 第 6 號. 36) 高橋, 上林, 古屋, 日本醫科大學雜誌. 第 5 卷. 第 11 號. 37) 佐藤, 診斷ト治療. 昭和 8 年 11 月. 38) 入澤, 內科學第 4 版. 39) 竹内, 近世細菌學免疫學第 3 版. 40) 熊谷, 臨牀の日本. 第 1 卷. 第 1 號. 41) 三木, 獨塚, 肺結核. 第一輯. 昭和 6 年. 42) 岡, 東西醫學. 第 1 號. 第 2 號. 43) 小林, 治療及ビ處方. 第

117 號. 44) 瀧谷, 結核. 第 5 卷. 第 11 號. 44) 岩佐, 結核. 第 6 卷. 第 1 號. 46) 高橋, 松本, 結核. 第 12 卷. 第 8 號. 47) 砂川, 結核. 第 13 卷. 第 3 號. 48) 高野, 軍醫副雜誌. 第 265 號. 49) 松岡, 石井, 宮川, 榮養標價表. 50) 塚山, 診斷ト治療. 増刊第 10 編. 51) 内務省衛生局, 結核死亡統計. 昭和 7 年. 昭和 8 年. 52) 田澤, 結核. 第 8 卷. 第 5 號. 53) 宇留野, 實驗醫報. 第 16 年. 第 186 號. 54) 橋本, 兒科雜誌. 第 361 號. 昭和 5 年. 55) 辻川, 結核. 第 3 卷. 56) 岩淵, 日本醫事週報. 第 1927 號. 57) 高田, 學校衛生. 第 8 卷. 第 5 號. 58) 坂井, 兒科雜誌. 第 135 號. 59) 加藤, 結核. 第 6 卷. 第 8 號.